

教科「日本語」検証・検討委員会 報告書



世田谷区教育委員会

教科「日本語」検証・検討委員会

平成29年3月

はじめに

世田谷区が独自に創設した教科「日本語」の取組は、今年度で10年目を迎えました。創設当時の社会状況として、価値観の多様化や情報化・国際化が進展していく中、コミュニケーションが上手にとれない人の増加や様々な面での社会性の欠如等の課題が指摘されておりました。また、経済協力開発機構による国際学習到達度調査（PISA調査）の結果を受けて、児童・生徒の学力低下についても大きな議論となっておりました。

本区では、このような問題に対する学校教育の果たすべき役割として、一見遠回りのように思われても、「ことばの力」を育成することが、これからの日本の教育にとって、最も重要なことのひとつであると考え、教科「日本語」の取組を開始いたしました。それは、ことばは人が考え、表現するための基盤であり、ことばの力を高めることが児童・生徒の社会性や学力を高める源になると考えたからです。

「教科『日本語』」は、学習指導要領の枠組みを超えたものとして創設し、「世田谷『日本語』特区」、その後「文部科学省教育課程特例校」として取組を継続してきました。開始6年が経過した平成24年度には、学習指導要領改訂時の世田谷区教育要領の策定に合わせ、教科「日本語」の「ねらい」や「カリキュラムの柱」などの変更を行うとともに、意識調査を実施しました。

本年度は、取組開始から10年の節目であること、次期学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会の検討も開始されたことから、「教科『日本語』の検証・検討委員会」を設置することといたしました。また、今後も社会状況や教育改革の流れなどを踏まえ、一定期間毎に検証し、よりよいものにしていく必要があると考えております。

昨今、グローバル化や情報化といった社会的変化が加速度的に進展し、知識基盤社会において、「ことばの力」は、ますます重要となっていくことが予測されます。本検証・検討委員会では、これからの時代を生きる児童・生徒に必要な力を見据えるとともに、世田谷区独自の取組としての特色を大切にしながら、今後の教科「日本語」の在り方等について協議を重ねてまいりました。本報告書は、これまでの協議をまとめ、現段階の方向性を示したものです。今後、本報告書の内容を具現化し、次代を担う児童・生徒の力をさらに高めるような取組となるよう進めてまいります。

世田谷区教育委員会

目次

はじめに

1 教科「日本語」とは	
(1) これまでの経緯	1
(2) 教科「日本語」のねらいと主な内容	1
(3) 教科「日本語」の主な運営体制	2
2 検証・検討委員会	
(1) 目的	5
(2) 組織	5
(3) 主な日程	5
3 実態調査	
(1) 調査の概要	6
(2) ことばの力に関する調査の主な結果	7
(3) 意識調査の主な結果	27
(4) 実態調査結果に関する考察	44
4 学習指導要領と教科「日本語」	
(1) 学習指導要領と教科「日本語」における「日本語の響きやリズム」に関する内容の関係	46
(2) 教科「日本語」における「日本語の響きやリズム」に関する取扱い	52
(3) 教科「日本語」のねらい等の変遷	53
(4) 次期学習指導要領（平成29年3月告示予定）改訂の方向性	54
5 今後の教科「日本語」の在り方	
(1) 検証・検討委員会での主な意見・協議内容	56
(2) 教科「日本語」の目標	57
(3) 教科「日本語」において育成をめざす資質・能力の整理	57
(4) 教科「日本語」における教育のイメージ	58
(5) 教科「日本語」の学習過程のイメージ	59
(6) まとめ	60
資料編	
1 ことばの力に関する調査票	63
2 ことばの力に関する調査結果	70
3 意識調査票	73
4 意識調査結果	95
教科「日本語」検証・検討委員会名簿	159

1 教科「日本語」とは

(1) これまでの経緯

教科「日本語」は、世田谷区が独自に設定している特別の教科である。

平成16年12月に、内閣府より「世田谷『日本語』教育特区」が認定され、平成17年4月から、パイロット校での取組等を開始し、全校展開に向けてのカリキュラム検討や教科用図書の作成等を行った。平成19年4月から、「総合的な学習の時間」などの授業時間数を減らして、小学校全学年、中学校1・2年生で「哲学」「表現」領域の授業を開始した。平成20年4月から、中学校における「日本文化」領域の授業を開始した。

平成21年に、「教育特区」の取扱いが変更となったため、文部科学省に特別の教育課程編成・実施計画を提出、受理され、全区立小・中学校が「教育課程特例校」となった。平成23年に小学校、24年に中学校において、現行の学習指導要領が全面実施され、「総合的な学習の時間」の授業時間数が減ったことから、中学校の教科「日本語」の時間数及び内容を変更して、中学校1年「哲学」、2年「表現」、3年「日本文化」の学年毎の領域により実施することとし、現在、小・中学校とも毎週1時間（年間35時間、小学校1年生年間34時間）実施している。授業には、区が作成している教科用図書を使用している。

平成24年度に、児童・生徒・教員・保護者等に教科「日本語」に関する意識調査を行っている。

(2) 教科「日本語」のねらいと主な内容

①ねらい

- ア 深く考える力を育成する。
- イ 自分の考えや思いを表現する力、コミュニケーション能力を育成する。
- ウ 日本文化を理解し大切に、継承・発展させる力・態度を育成する。

② 主な内容

ア 小学校

全学年で週当たり1単位時間授業を行っている。

短歌や俳句、古文、漢詩、論語、近代詩などを朗唱し、日本語の響きやリズムを考える学習や世田谷区の民話や地名の由来、日本の四季や伝統文化について調べたり考えたりする学習を行っている。

イ 中学校

全学年で週当たり1単位時間の授業を行っている。

教科「日本語」の3つのねらいにあわせ「哲学」「表現」「日本文化」の3つの領域を設置している。また、どの領域にも【必修】と【発展】をおいている。

(ア)「哲学」(第1学年)

人が生きることの意味(人生観)、人と人とのつながり(社会観)、人と自然のかかわり(自然観)などについて読み物資料をもとに考えたり調べたりすることを通して、深く考える学習を行っている。

(イ)「表現」(第2学年)

相手の思いや考えを十分に受け止めていくことの大切さや自分が感じたことや考えたこと、自分の気持ちなどを自分のことばで分かりやすくより豊かに表現することやレポートにまとめることなどについて学習している。

(ウ)「日本文化」(第3学年)

日常生活の基盤である衣・食・住を中心に、身近な生活の中から話題を取り上げ、日本に伝わる伝統・文化について調べたり、体験したり、考えたりする学習を行っている。

(3) 教科「日本語」の主な運営体制

①教科「日本語」担当者の設置

- ・校内で教科「日本語」を推進する力量があると校長が認める者を各校1名以上選出し、教科「日本語」の授業づくりについて、校内の教員に助言したり、研修等の内容を校内の教員に周知・徹底したりする。
- ・初任から4年目などの若手教員や他の地区から異動してきた教員などに対して教科「日本語」の授業づくりの支援をする。
- ・校内で教科「日本語」の授業の充実を図るために中心的な役割を果たす。例えば、校内研修会の企画・調整や、教材・指導資料等の収集・保管・共有化等を副校長と共に推進する。
- ・教科「日本語」担当者研修に参加する。また、研修参加の次年度以降に、教科「日本語」リーダー養成研修を受講し、教科「日本語」リーダーとして校内外において、教科「日本語」の推進を図る。

②教科「日本語」リーダーの選出・活用

- ・教科「日本語」リーダー養成研修(平成23年度開始)を受講、修了した者。(平成28年度までに小学校50名、中学校25名が修了している。)
- ・世田谷区立学校の教科「日本語」の授業の質の向上に資する。
- ・教育指導課主催の教科「日本語」に関する研修会やブロック公開授業等で授業者を務める。
- ・自身が校内の教科「日本語」担当者を担うか、または、教科「日本語」担当者を支援する。

③教科「日本語」地域公開授業の実施

- ・区立小・中学校全校で保護者・地域を対象とした教科「日本語」の公開授業を年1回以上実施する。
- ・保護者・地域あての通知を作成する。全学年・全学級を公開する。

④校内研修会の実施（中学校）

- ・研究授業を伴う全員参加の校内研修会を年間1回以上行う。
- ・教科「日本語」の更なる推進、充実に向けて、平成23年度から開始した取組であり、毎年順番に、3領域を選択して研究授業を実施している。必ず、3年間で3領域の授業を行うようにしており、本年度で各領域について2回ずつ実施した。
- ・講師は基本的に教育指導課の指導主事等が行う。ただし、指導主事が参加できない場合、同一ブロックの教科「日本語」推進委員会の校長等が行う場合がある。

⑤教科「日本語」推進委員会（校長）の設置

区立小学校長（8名）と区立中学校長（4名）で構成し、教科「日本語」のこれまでの成果についての検証方法の検討や教科「日本語」の課題の協議、教科「日本語」に関する研修会、研究授業等の講師、教科「日本語」リーダー養成研修研究発表会への参加を行う。

⑥教科「日本語」推進委員会（副校長）の設置

区立小学校副校長（8名）と区立中学校副校長（4名）で構成し、ブロック毎に設定した教科「日本語」の推進に向けた取組を各学校で実施し、教科「日本語」の授業の充実を図る。また、教科「日本語」の充実・発展に向けた協議・検討、教科「日本語」に関する研修会、研究授業等の講師、教科「日本語」リーダー養成研修研究発表会への参加を行う。

⑦教科「日本語」担当者研修

各校の教科「日本語」担当者を対象とし、校内で教科「日本語」を推進するための役割や、教科「日本語」の授業づくりについて研修する。

⑧教科「日本語」リーダー養成研修

前年度の教科「日本語」推進委員会において、各ブロックから2～3名程度受講者等を対象とし、世田谷区立学校において教科「日本語」を推進するためのリーダー的な役割を担う教員を養成する。受講者は、年1回、研究授業として公開授業を行い、講師より指導・助言を受ける。公開授業は、教科「日本語」担当者研修での実施、または、任意にて日程を設定し公開する。どちらも、研究協議会を行う。

⑨教科「日本語」リーダー養成研修受講者による授業公開

教科「日本語」リーダー養成研修受講者の研究授業を公開し、若手教員や他区から異動してきた教員が授業参観し、学ぶ場とする。

⑩夏季教科等研修

受講を希望する教員のほか、新規に他地区から異動してきた教員等、校長・副校長が受講させた方がよいと判断した教員が受講する。小・中学校、各1回、計2回実施している。

- ・小学校の内容として、「日本語のリズムや響きに関する単元」及び「そ

の他の単元」の授業づくりについて実施する。

- ・ 中学校の内容として、「哲学」、「表現」、「日本文化」の各領域の授業づくりについて実施する。

⑪教科「日本語」指導資料集の作成

- ・ 平成26年3月作成…「小学校1・2年生版」と「中学校哲学版」
- ・ 平成27年3月作成…「小学校3・4年生版」と「中学校表現版」
- ・ 平成28年3月作成…「小学校5・6年生版」と「中学校日本文化版」

⑫古典芸能鑑賞教室（小学校）

小学校6年生を対象とし、「日本の舞台芸術に触れよう」の単元の一つとして古典芸能鑑賞教室を実施している。

⑬歌舞伎鑑賞教室（中学校）

中学校3年生を対象とし、日本文化の「楽」の単元の一つとして、国立劇場での歌舞伎鑑賞教室を実施している。

2 検証・検討委員会

(1) 目的

平成19年度から区独自に進めている教科「日本語」の取組について、本年度、検証を行う（前回の検証は平成24年度に実施）。その結果を踏まえ、次期学習指導要領の動向を見据えつつ、今後の在り方等を検討していく。

(2) 組織（本年度の委員氏名は、159ページ参照）

委員長：教育委員会教育長

委員：学識経験者（2名）、区立小学校長会代表（4名）、区立中学校長会代表（4名）・区立幼稚園長会代表（1名）、教育次長、教育政策部長、教育指導課長

事務局：教育指導課 統括指導主事、指導主事、指導管理係長、主任主事

(3) 主な日程

時 期	内 容
5月 9日 (月)	第1回 教科「日本語」検証・検討委員会 ・本委員会の趣旨の確認 ・現状及び成果と課題の協議 等
6月 6日 (月)	第2回 教科「日本語」検証・検討委員会 ・実態調査の内容の検討 ・現状及び成果と課題の協議 等
6月～7月	○実態調査の実施
7月12日 (火)	第3回 教科「日本語」検証・検討委員会 ・教科「日本語」とこれまでの学習指導要領の変遷 等
8月25日 (木)	第4回 教科「日本語」検証・検討委員会 ・改訂の方向性の協議 等
9月20日 (火)	第5回 教科「日本語」検証・検討委員会 ・「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」 ・改訂の方向性の協議 等
10月17日 (月)	第6回 教科「日本語」検証・検討委員会 ・実態調査の中間報告（速報値） ・改訂の方向性の協議 等
10月 ～12月	教育委員会（10/25）文教常任委員会（11/11）校長会（12/9） ・経過の報告
12月16日 (金)	第7回 教科「日本語」検証・検討委員会 ・最終報告に向けて検討
1月30日 (月)	第8回 教科「日本語」検証・検討委員会 ・最終報告に向けて検討
2月～3月	教育委員会（2/14）文教常任委員会（2/27）校長会（3/10） ・最終報告

3 実態調査

(1) 調査の概要

①目的・方法

本区独自の教科「日本語」の取組について、次期学習指導要領の動向を見据えつつ、今後の在り方等を検討していくために、教科「日本語」に関する調査を実施する。本調査の設計と実施、分析については、(株)ベネッセコーポレーションに業務委託し、検討・検証委員会で報告を受ける。

②対象

ア 児童・生徒を対象とする調査

対象	小学校4年生	小学校6年生	中学校2年生	中学校3年生
対象校 学級	学校番号が奇数の小学校 1学級抽出	学校番号が偶数の小学校 1学級抽出	全中学校 1～2学級抽出	全中学校 1～2学級抽出
回答数	1,091名	1,049名	984名	997名
調査内容	ことばの力等に関する調査	教科「日本語」に関する問題及びことばの力に関する問題 7月実施		語彙・読解力検定(朝日新聞・ベネッセ) 6月実施
	教科「日本語」に対する意識調査	選択式41問、記述式1問 7月実施	選択式41問、記述式1問 7月実施	選択式61問、記述式1問 7月実施

イ 校長及び副校長、教職員を対象とする調査

対象	全校長及び全副校長	教職員
対象校	全小・中学校	全小・中学校 主幹教諭1名、主任教諭2名、 教諭2名
回答数	179名	429名
教科「日本語」に対する意識調査	選択式27問、記述式1問 7月実施	選択式28問、記述式1問 7月実施

ウ 保護者を対象とする調査

対象	小・中学校保護者
対象校 学年・学級	全小・中学校 小学校2・4・6年生、中学校1・2・3年生の各1学級抽出し、 出席番号が5、10、15、20番の児童・生徒の保護者に依頼
回答数	987名
教科「日本語」に対する意識調査	選択式27問、記述式1問 7月実施

エ 卒業生を対象とする調査

対象	区立中学校卒業生
対象校	平成21年度以降区立中学校卒業生 60名に依頼
回答数	25名
教科「日本語」に対する意識調査	選択式40問、記述式1問 7月実施

(2)「ことばの力に関する調査」の結果概要

63ページからの資料編において、すべての調査問題及びその結果を示しているが、ここでは、主な結果概要等を記載する。

① 調査内容

ア 小学校6年生

小学校6年生を対象とした「ことばの力等に関する調査」は、大問3問の構成とし、大問1は、教科「日本語」に関連する知識等を問う問題、大問2及び3は、「ことばの活用」に関する問題とした。大問2よりも3の方が、難易度が高い。

- ・対象 学校番号が偶数の小学校6年生 1～2学級抽出
- ・受検者数 1,040名
- ・解答時間 20分程度
- ・平均正答率 57%

イ 中学校3年生

中学校3年生を対象とした「ことばの力等に関する調査」は、朝日新聞社とベネッセコーポレーションが共同開発した『語彙・読解力検定』を実施した。本調査は、辞書語彙を問う問題、新聞語彙を問う問題、読解問題で構成されており、社会への視野を広げる語彙力と、社会を読み解く読解力を測定するものとなっている。

- ・対象 中学校全校の3年生 1～2学級抽出
- ・受検者数 1,002名
- ・有効受検者数 985名
- ・解答時間 45分
- ・合格者 513名 52%
- ・不合格者 472名 48%

② 調査結果

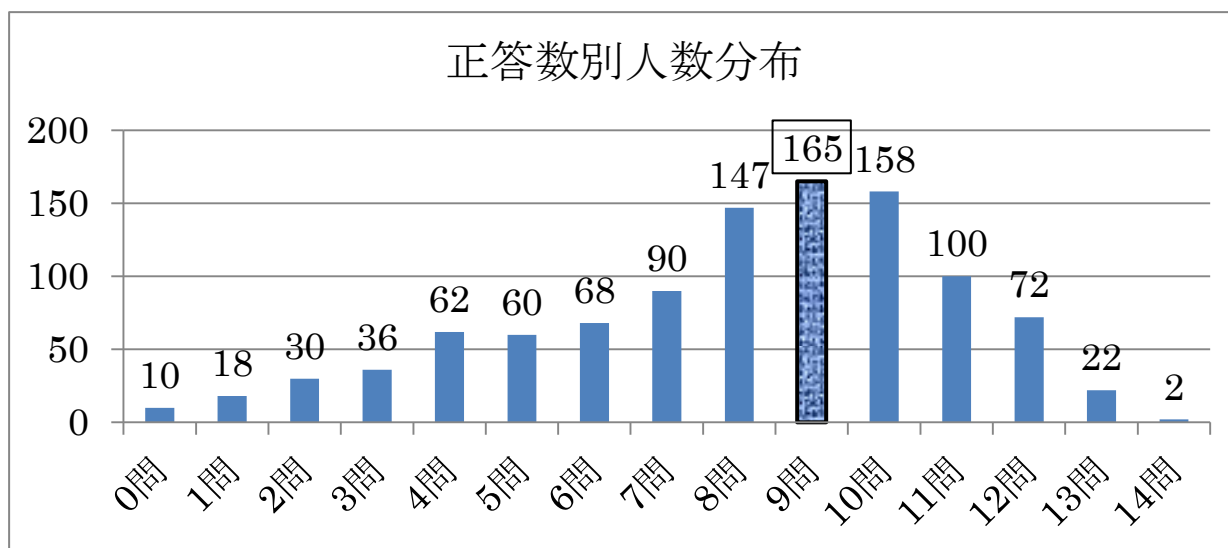
ア 小学校6年生

(ア) 全体傾向としての正答率等の状況

大問1					大問2				大問3				
53%					74%				47%				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
48%	62%	28%	60%	66%	77%	58%	82%	78%	23%	75%	33%	46%	60%

・全体の平均正答率は57%であった。大問2は比較的高い正答率であり、大問3については、正答率が低かった。

小問で見ると、平均正答率である57%を下回った問題は、1-1、1-3、3-1、3-3、3-4の5問であり、特に1-3と3-1は正答率が20%台であった。



・14点満点で、平均正答数は、7.9問である。トップボックスは正答数9問であり、分布はやや右に偏っている。

以下、平均正答率（57%）以下の問題について、考察していく。

百人一首は、七世紀半ばから十三世紀初めまでの百人のすぐれた歌人の短歌を、それぞれ一首ずつ選んで一まとめにしたものです。日本の四季折々の美しさや、日本人の奥深い心がこめられています。

百人一首を一つ書きましょう。(ひらがなでもよい)

(イ) 大問 1 - 1

【百人一首を書かせる問題】

平均正答率 48%

- ・上の句、下の句ともに完全に書けていると正答となる。完全解答という条件を考えると、平均正答率48%は、低いとは言えないとの議論もあった。

次の漢詩「偶成」について、それぞれ①から③の番号に入る文を、④～⑥の中から選びましょう。

少年老い易く 学成り難し

() ① ()
 () ② ()
 () ③ ()

④…未だ覚めず 地塘春草の夢
 ⑤…階前の梧葉 巳に秋声
 ⑥…一寸の光陰 軽んずべからず

(ウ) 大問 1 - 3

【漢詩「偶成」の順番を並び替える問題】

平均正答率 28%

- ・選択式であるが、正答率が低い。ただし、教科「日本語」はこうした漢詩などを暗記させることをねらいとはしていない。繰り返しリズムをもとに朗読していく中で、どの程度覚えているのかを確認してみた。暗記を目的とはしていないが、考えていた以上に正答率が低かった。

(エ) 大問 3 - 1

【話合いの中で、2人の登場人物の発言から論点を整理して書く問題】

平均正答率 23%

- ・ 2人の登場人物の発言に共通する言葉を文章の中から見付け出す問題である。12字以内という時数制限の影響から正答率が低かったと考えられるが、この設問3-1の正答率が全設問の中で最も低かった。場面の状況等を考えて表現する力を高める必要がある。

一 【討論会の様子】の中の④原田（前倉）の○の中には、①上田さんと⑤川口さんの発言に共通する論点が入ります。ふさわしい内容を、二人の発言に共通する言葉を使って、十二字以内で書きましょう。

(オ) 大問 3 - 3

【話合い活動の中で、他者の意見を受けて、質問または意見を言うことができるかを問う問題】

平均正答率 33%

- ・ 40字以上、65字以内にまとめる問題である。長い記述式問題のため、正答率が低いと考えられるが、上の設問3-1と同様に、場面の状況等を考えて表現する力を高める必要がある。

三 あなたは、【討論会の様子】の中の④のところで、③水野さんの発言に対して、「手紙であやまる」立場から「質問」か「意見」かのどちらかを書きます。解答用紙の○の中に「質問」か「意見」かのどちらかを選んで書き、その内容を次の条件に合わせて書きましょう。
(条件)
○ ③水野さんの発言の中の言葉を、「」を使って引用して書くこと。なお、「」の中に引用する言葉は十五字以内とする。
○ 書き出しの文に続けて、四十字以上、六十五字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの文は字数にふくむ。

(カ) 大問 3 - 4

【司会者として、参加者の発言を受け止めながら、話し合い活動を進めることができるかどうかを問う問題】

平均正答率 46%

- ・内容を読み取り、適切な単語を当てはめる問題である。
文章の中に、いくつか正答の候補となりそうな単語があり、文意を正確につかむ論理的な思考力が必要な設問である。

四 討論会の後、先生が「②原田（司会）さんの発言は、司会として、とてもよかった」と言いました。どのようなところがよかったのでしょうか。次の□□に当てはまる言葉を書きましょう。

司会として、水野さんの発言の□□を確かめたから。

イ 中学校 3 年生

今回の検証において、中学校 3 年生を対象とした「ことばの力」をみる問題は、朝日新聞とベネッセコーポレーションが実施している「語彙・読解力検定」の 4 級を用いることとした。教科「日本語」がねらっている「ことばの力」の状況を評価するためには、オリジナルの問題を用いることも考えられるが、世田谷区立中学校の生徒以外との全国的な比較ができることや、本調査が実施している「ことばに関する態度・姿勢のアンケート」との因子分析の観点との比較ができることから、本調査を実施することとした。

なお、今回受検した検定問題そのものは公開できないため、以下に本検定の出題設計について紹介する。

(ア) 語彙・読解力検定（4 級）の概要

設問数	a 辞書語彙	25 問
	b 新聞語彙	30 問
	c 読解	2 題 (説明文 5400 字程度+天声人語 600 字程度)
出題内容	a 辞書語彙	語の意味 意味から語の特定 適切な用例（敬語・接続詞を含む）
	b 新聞語彙 (政治・社会・文化、経済・国際、 科学技術・環境、医療・生活)	語の意味 意味から語の特定 周辺知識 記事の中での語の理解
	c 読解	語句の意味（語彙問題） 部分的な内容（部分読解問題） 全体の内容 その他（空欄補充・同音異義語など）
	出題素材	新聞記事及び一部でオリジナル素材

(イ) 語彙・読解力検定の出題設計

a 辞書語彙について

- ・中学生や高校生に知っておいてほしい、社会を生きるうえで必要な日本語の知識・用法を「幹語」に選定する。
- ・中学校の「国語」教科書に掲載の重要語彙を指標とし、活用頻度の高い使用語彙を中心に精選する。

●社会に通用する語彙のバリエーションを増やす

⇒家族や友人との会話でのみ通じる「私的」な語彙ではなく、公的な場や異世代の方との会話・対話で使うことのできる語彙を増やし、敬語も含む「必要に応じた言い換え表現」を可能にする。

●論理立てて物事を伝える際に必要となる語彙を増やす

⇒接続語などを適切に使用することで、文意や文脈を正しく理解したり伝えたりすることができる。

■語句の用例を問う

例) 提示された語句の用例として最も適切なものを選びなさい。

「つまり」

- ①山間部では雨、つまり、雪が降るでしょう。
- ②この人は母の兄、つまり、私の伯父です。
- ③後半戦での必死の追い上げ。つまり、あと一步及ばなかった。
- ④身分証明書、つまり、印鑑をご持参ください。
- ⑤今シーズンは優勝した。つまり、来シーズンも楽しみだ。

■語句の意味を問う

例) 一線部の語句の意味として最も適切なものを選びなさい。

電車を降りると、わびしい風景が広がっていた。

- ①のんびりとした
- ②ものさびしい
- ③謝りたくなるような
- ④薄暗い
- ⑤ほっとするような

b 新聞語彙について

【時事性の担保について】

「幹語」は中学生や高校生に知っておいてほしい、現代社会を生きるうえで必要な知識・時事用語から選ぶが、「幹語」自体が必ずしも最新時事とは限らない。

ただし、文脈学習型問題では（作問時に）1年以内の新聞記事を使用し、時事的な文脈の中で問うようにする。

文脈学習型問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

T P Pに入ると、暮らしにはどんなメリットがあるのだろうか。

「生クリームやバターを自由に輸入できたら、おいしいデザートを安く出せるんです」。外食チェーン、サイゼリヤの堀埜一成社長はこう話す。

クリームの原料になる脱脂粉乳やバターには200～300%の（A）がかかる。これでは高いので、オーストラリアでバターやクリームを入れたホワイトソースをつくり、輸入する。加工すれば、（A）は二十数%に下がるからだ。

（2013年04月13日朝日新聞より）

問1 下線部「チェーン」の意味として最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ①収益が安定しない新規事業のこと
- ②独立した法人格を持つ博物館、研究機関などのこと
- ③同一資本のもとにある、店舗の系列
- ④個人が単独で出資した企業のこと
- ⑤株式を発行して資本家から資金を調達して活動する企業のこと

問2 空欄Aには「輸入品にかかる税金」という意味の語が入る。あてはまる語として最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ①消費税
- ②所得税
- ③間接税
- ④固定資産税
- ⑤関税

語彙自体は時事性はないが、時事を理解するために必要な重要な語

*新聞記事で旬の話題を扱う。ただし、T P Pの詳細内容自体は中学学習範囲を超えているので問わない（よく聞く話題・大事なテーマだ、と受検者に思わせることはできる）

c 読解について（1）

出題範囲と文章テーマ

●短めの新聞記事、もしくは新聞記事に基づく説明的文章（500字程度）

【文章選定基準】

- ・中学生や高校生に知っておいてほしい、社会的問題・出来事について、分かりやすく述べた文章。
 - ・「何について、どうだ」と「なぜ」述べるのか、「序論・本論・結論」の構成になっており、具体的事実・具体例と意見・主張を含んだ文章。
- ※テーマとしては大きく深いのが、身近にひきつけて興味・関心がもてる切り取り方をしていく。

【テーマ例】

環境：地球温暖化・生物多様性・資源枯渇
医療：臓器移植・再生医療・出生前診断
生活：食の安全・防犯・防災
情報：個人情報・著作権・ネットワーク犯罪
社会：少子高齢化・雇用・裁判員裁判
国際：国際協力・核問題

※社会で起きている問題・技術革新・事件などについて、新聞記事を参考に、「序論・本論・結論」で構成された説明的文章を書き起こし、そこから出題していく。

●天声人語（600字程度）

【文章選定基準】

- ・その日・その時しか理解しにくい内容や引用が多すぎる文章は避ける。
- ・中学生や高校生にも共感できる内容、興味・関心をもってほしい内容の文章で、筆者の主張と根拠が明確な文章を選ぶ。

d 読解について (2)

問い方 (例)

◆次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちの生活や産業活動の中から不要となったものがごみとなり、それがきちんと **A** カイ収・処分されずに海へ流れ出たものが海ごみとなる。

海ごみには海面や海中を浮遊する「**B**ごみ」、海岸に流れ着いた「**C**ごみ」、そして海の底に沈んだ「海底ごみ」の三つがある。

これらの被害は深刻で、微生物によって分解されないビニールやプラスチック類は何百年もの間そこに残存する。そして海の美観を **D**ほか、**E** 海洋生物を窒息させ、死に至らしめたりもする。波間を漂うビニール袋を、魚やウミガメがクラゲと間違えて誤って飲み込んでしまうからだ。また、海洋生物のみならずダイバーがテグスに絡んで死亡する事故もあり、海ごみは人間にも危害を及ぼしている。

〈注〉テグス＝テグスサン（＝ガの一種）の幼虫から取って作る透明の細かい糸。釣りなどに使う。

【問題文の条件】

以下の条件に当てはまる文章を選定・作成する。

⇒「何について」(話題)が明確。

具体的な事実(現象)が明確で、いくつかの事例が挙げられている。

⇒文章中に、因果関係・理由・根拠などが存在する。

⇒主張の方向性が明確。

必ずしも主張が書かれていなくても、文章の続きとして帰結する主張の方向性が分かる文章。

e 読解について (3)

【設問の構成】

問1 「同音異義語の漢字」

複数ある同音異義語のうち、文脈に当てはまる熟語を特定し、漢字を答えさせる。

問2 「空欄補充-語の意味」

文章中の定義から、類義語の意味を考えて言葉を特定させる。

問3 「慣用的表現」

文脈から表現を特定させるとともに、慣用的な言い回しとしても適切な表現を選ばせる。

問4 「理由・根拠の把握」

説明の論理関係を文脈から捉えさせる。

問5 「筆者の意図の論理的推測」

文章内容から、筆者が述べようとしている意図を捉えさせる。

< 出題例 >

問1 下線部Aのカタカナに当てはまる漢字として最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 解 ② 回 ③ 戒 ④ 皆 ⑤ 改

問2 空欄B・Cに当てはまる組み合わせとして最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- | | | | |
|-----|----|---|----|
| ① B | 漂泊 | C | 帰着 |
| ② B | 遊泳 | C | 漂着 |
| ③ B | 漂流 | C | 漂着 |
| ④ B | 濁流 | C | 到着 |
| ⑤ B | 漂泊 | C | 吸着 |

問3 空欄Dに当てはまる語として最も適当なものを①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 損ねる ② 壊す ③ 守る ④ 破る ⑤ 保つ

問4 下線部E「海洋生物を窒息させ、死に至らしめたりもする」とあるが、なぜか。最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① ビニール袋を誤って飲み込んでしまうから。
② 海ごみは人にまで危害を及ぼしているから。
③ 魚やウミガメが海ごみをクラゲと間違えるから。
④ テグスに絡まってしまうから。
⑤ ビニールが微生物によって分解されないから。

問5 筆者がこの文章の続きを述べるとしたら、その結論としてふさわしいものはどれだと考えられるか。最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 海ごみがなぜ発生するのか調査しなければならない。
② 海ごみを減らすための規制を強化する必要がある。
③ 海ごみの有毒性を科学的に解析しなければならない。
④ 海洋生物の生態研究を急ぐ必要がある。
⑤ 何よりもごみそのものを減らすことが先決だ。

(ウ) 全体傾向としての正答率等の状況

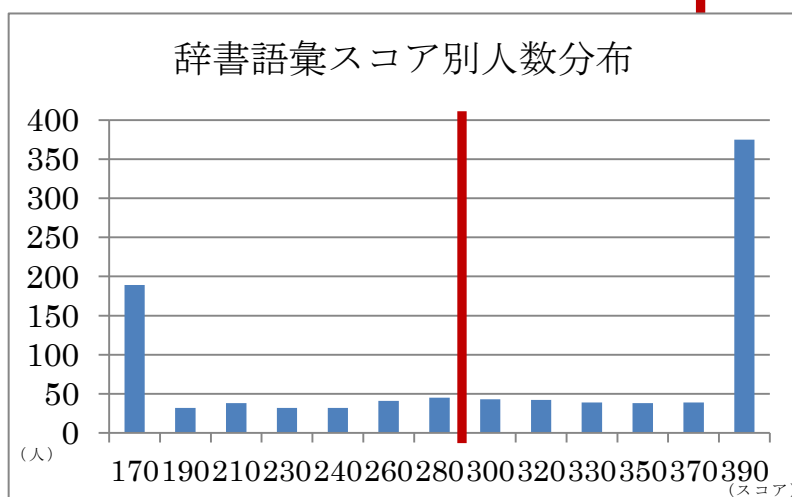
◎合格条件 : 辞書語彙スコア300以上かつ新聞語彙・読解の合計得点率60%以上

<全受検者の得点分布> 太枠で示した52%が合格者		新聞語彙・読解 得点率	
		合格基準以上 696名 71%	合格基準以下 289名 29%
辞書語彙スコア	合格基準以上 576名 58%	513名 52%	63名 6%
	合格基準以下 409名 42%	183名 19%	226名 23%

- ・合格条件を満たした生徒は、513名（全体の52%）であった。この合格率は、4級の他の一般受検者とほぼ同一の結果であった。他の一般の受検者の層が概ね高校1年生程度であることから、世田谷区立中学校3年生の合格率は高いと言える。
- ・なお、新聞語彙・読解の得点率のみで考えると合格基準以上の生徒が71%もあり、この数値はかなり高いと言える。

<辞書語彙スコア 得点別人数分布>

辞書語彙スコア	170	190	210	230	240	260	280	300	320	330	350	370	390	計
人数	189	32	38	32	32	41	45	43	42	39	38	39	375	985
占有率	19%	3%	4%	3%	3%	4%	5%	4%	4%	4%	4%	4%	38%	100%
占有率 類型	19%	22%	26%	30%	33%	37%	42%	46%	50%	54%	58%	62%	100%	



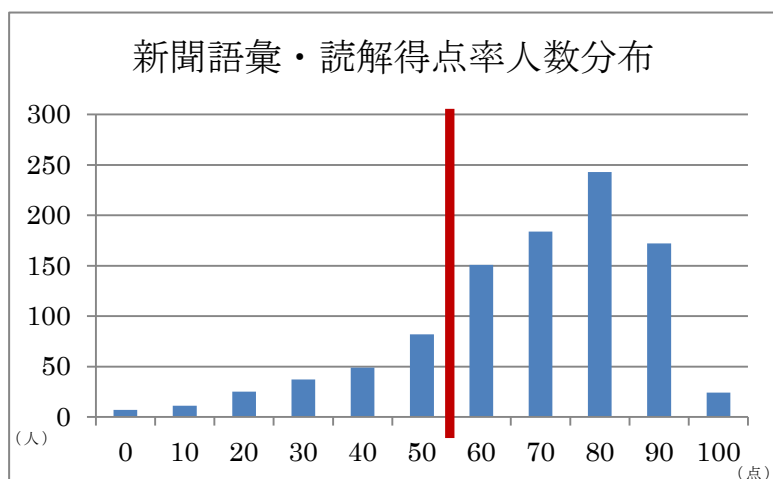
合格条件
300以上

IRT（※次ページ下段参照）の閾値として4級は測定範囲を170～390で設定しているため、極端な二極化となる。390以上がトップボックス。58%が合格点以上にいる一方、170以下が約20%いる

＜新聞語彙・読解 合計得点率別人数分布＞

新聞語彙・ 読解得点率	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	計
人数 (人)	7	11	25	37	49	82	151	184	243	172	24	985
占有率	1%	1%	3%	4%	5%	8%	15%	19%	25%	17%	2%	100%
占有率類型	1%	2%	4%	8%	13%	21%	37%	55%	80%	98%	100%	

合格条件
60%以上



- ・合格基準以上の生徒数は、辞書語彙より新聞語彙＋読解の方が多く、新聞語彙＋読解の得点率は、中学校3年生としては、非常に高い。新聞語彙＋読解の得点率の高さが合格率を引き上げていると言える。また、中学校への進学時に小学校での上位層が国公私立中学校へ進学する傾向のある中で、小学校での中位層を上位に上げる指導ができていていると考えられる。
- ・新聞語彙＋読解の得点が良いことについては、本区立中学校全校において実施している朝学習（新聞の社説を読んで、要約したり、小見出しを付けたりする世田谷区独自の取組）の成果も影響していると考えられる。

※IRT（項目反応理論）とは…能力値や難易度のパラメータを推移し、データの適合を確かめるためのもの

(エ) 『語彙・読解力検定』における「ことばに関する態度・姿勢のアンケート」の因子分析を活用した観点をを用いた傾向について

「ことばに関する態度・姿勢のアンケート」は、受検者に対し、学校や日常生活において、ことばに対してどのような態度・姿勢をとっていると思うかなどについて自己評価形式で問うものである。

「語彙・読解力検定」の結果とデータを接続し、検定のデータ（受検級の合否、IRTスコア、辞書・新聞・読解の領域別正解率、ベネッセコーポレーションがもつ過去データとの比較など）と因子分析を行うことで、検定合格者がもっている「ことばに関する態度・姿勢」の特徴を明らかにしようとする。

中学校3年生対象の意識調査61問のうち、29問を上記の方法により因子分析の観点を活用して比較し、傾向を把握する。

有効回答数：687名（うち、合格者352名、不合格者335名）

因子分析の観点と意識調査の設問との対照表

因子分析の観点		意識調査の設問	設問番号 (中3)
8	授業への取り組み姿勢	授業でわからないことは、わかるまで調べようとする	13
	授業への取り組み姿勢	授業中、先生が黒板に書かないで説明した内容もノートにとろうとする	14
1	論理的表現・行動	相手にもわかりやすい言葉や表現を選んで、自分の考えを伝えようとする	15
	論理的表現・行動	理由もつけて自分の考えを言うようにしている	16
5	学習意欲・多様性志向	いろいろな考え方の人から多くのことを学びたい	17
	学習意欲・多様性志向	新しいことにチャレンジするのが好きだ	18
	学習意欲・多様性志向	どんな話題に対しても、もっと知りたいと思う	19
6	社会問題への興味・関心	社会で問題になっていること（例えば、環境問題や政治問題など）について、興味・関心をもっている	20
	社会問題への興味・関心	ニュースの結末など、その後を追いかけて知ろうとする	21
	社会問題への興味・関心	ニュースでわからないことがあれば、調べてみようとする	22
	社会問題への興味・関心	辞書やインターネットなど、いろいろなところから正確な情報を得ようとする	23

2	批判的思考・ メタ認知	筆者の主張に対する自分の意見を考えながら読もうとする	24
	批判的思考・ メタ認知	文章を読むとき、内容をうのみにせず、まちがっているかもしれないと考えながら読もうとする	25
	批判的思考・ メタ認知	文章を読むとき、筆者の意見と事実とを区別して読もうとする	26
	批判的思考・ メタ認知	文章を読むとき、筆者の主張を裏づける理由や根拠に気をつけて読もうとする	28
	批判的思考・ メタ認知	文章を読むとき、難しい文があったら、自分の言葉で言い換えながら理解しようとする	27
	批判的思考・ メタ認知	文章を書いたら、読み直し、読み手にとってわかりやすく修正しようとする	30
	批判的思考・ メタ認知	文章を読むとき、細かいところより先に全体の意味をつかもうとする	29
	批判的思考・ メタ認知	気になった一つの事柄がきっかけになり、いろいろ調べることがある	31
4	言葉への深い 関心	わからない言葉に出会ったら、そのままにせず、調べようとする	32
	言葉への深い 関心	辞書を調べるときに、引いた語の意味だけでなく、関連する語や用例など、さらにくわしく調べようとする	33
7	適応的学習	学校の勉強や行事などに取り組むときは、目標や期限を確認しながらすすめるようとする	34
	適応的学習	学校の勉強や行事などに取り組むときは、自ら解決方法を筋道立てて組み立てようとする	35
3	問題解決・発 見力・思考力	授業などで発表するとき、わかりやすいように順番や要点を整理しようとする	36
	問題解決・発 見力・思考力	みんなに何かを説明するとき、図表や箇条書きなどを用いて、わかりやすく伝える工夫をしようとする	37
	問題解決・発 見力・思考力	みんなで何かを決めようとするときは、複数の意見の共通点や違う点を整理しようとする	38
	問題解決・発 見力・思考力	みんなで何かを決めようとするときは、多くの意見をまとめて一番よい結論を出そうとする	39
	問題解決・発 見力・思考力	物事に対して、すでに知っていることや自分の体験と結びつけて理解しようとする	40
	問題解決・発 見力・思考力	一つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	41

※因子分析の観点とは「語彙・読解力検定」においてアセスメントの設計や分析が行われた観点です。

※本分析中の『語彙・読解力検定』過去回との比較は、共通項目のみで行っています。

(カ) 過去受検校との比較

過去、団体受検した学校との比較を、意識調査の素点を用いて行った。

(これまでに4級の団体受検はなし。)

				観点8	観点1	観点5	観点6	観点2	観点4	観点7	観点3
				授業への取り組み姿勢	論理的表現・行動	学習意欲・多様性志向	社会への興味・関心	批判的思考・メタ認知	言葉への深い関心	適応的学習	問題解決・発見力・思考力
私立・中高一貫制女子校 (進学校)	2級	高2	209名	21.47	18.49	19.87	16.68	17.97	18.45	20.16	19.53
私立・中高一貫制男子校 (進学校)	準2級	高1	103名	20.80	21.51	22.25	19.59	20.60	20.00	21.54	21.85
私立・中高一貫制男子校 (進学校)	準2級	中3	213名	18.34	18.57	19.70	17.80	17.23	17.36	18.93	18.40
私立・中高一貫校 (進学校)	3級	高1	182名	18.46	19.96	21.65	17.98	18.27	18.10	19.87	19.48
県立高等学校 (進路多様校)	3級	高1	281名	18.17	18.06	20.16	17.18	17.79	17.58	19.29	18.29
世田谷区立中学校	4級	中3	687名	20.07	20.94	21.29	19.00	18.66	18.99	20.81	20.59

※各設問の回答 「とても」=4点、「まあ」=3点、「あまり」=2点、「全く」=1点 各観点の満点を28点にそろえて比較

- ・過去受検校5校のうち4校が進学校にも関わらず、ほとんどすべての学校よりも高い数値を出しており、相対的に世田谷区立中学校の生徒の意識が高いことが分かる。
- ・世田谷区立中学校3年生の人数(687名)は、全受検者(985名)のうち、因子分析の観点を活用して比較することのできた有効回答数である。(合格者352名 不合格者335名)

(カ) 各観点の合否別平均得点

世田谷区の生徒の結果を因子分析の観点に適応し、傾向を分析した結果、8つの観点のうち観点5と観点7を除く6つの観点で平均得点の合否差を確認できた。

	観点8 授業への 取り組み姿 勢	観点1 論理的 表現・行 動	観点5 学習意 欲・多様 性志向	観点6 社会へ の興 味・関心	観点2 批判的 思考・メ タ認知	観点4 言葉へ の深い 関心	観点7 適応的 学習	観点3 問題解 決・発見 力・思考 力
合格	20.57	21.45	21.07	19.49	19.35	19.55	20.73	21.02
不合格	19.54	20.41	21.52	18.48	17.93	18.39	20.90	20.14
合否差	1.04	1.03	-0.44	1.01	1.41	1.17	-0.16	0.89
P 値 (片側確率)	0.0030	0.0025	0.1046	0.0048	0.0000	0.0010	0.3447	0.0039

※各設問の回答 「とても」=4点、「まあ」=3点、「あまり」=2点、
「全く」=1点 各観点の満点を28点にそろえて比較

※P値は「0.05」以下が有意してみなされる。

<世田谷区の生徒の全体像>

観点5（学習意欲・多様性志向）は大きな合否差が見られないが、生徒は、合否に関係なく高い学習意欲をもっていることが分かる。

観点7（適応的学習）も大きな合否差が見られないが、生徒は、合否に関係なく、目標や期限を意識しながら授業や行事に取り組んでいることが分かる。

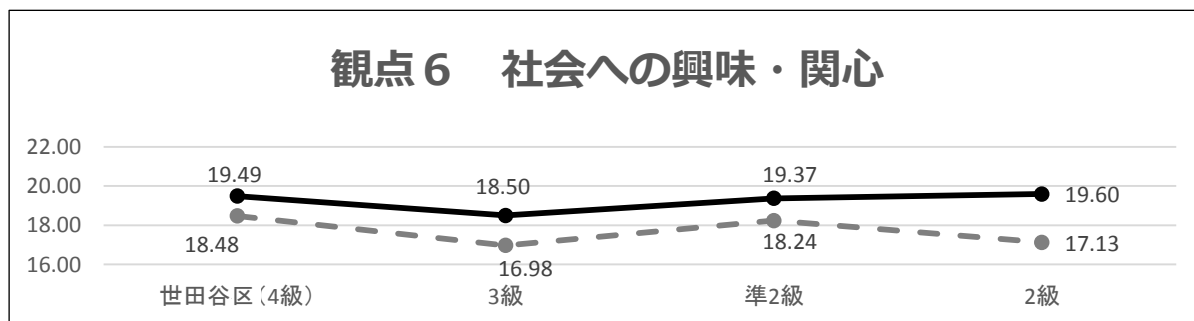
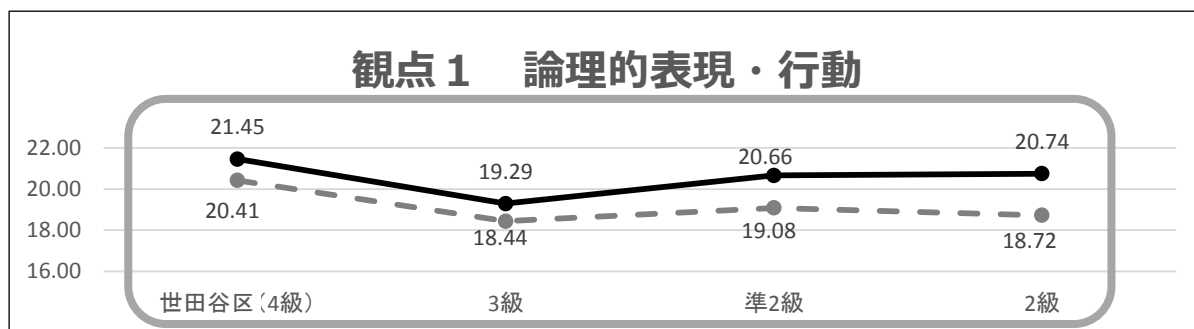
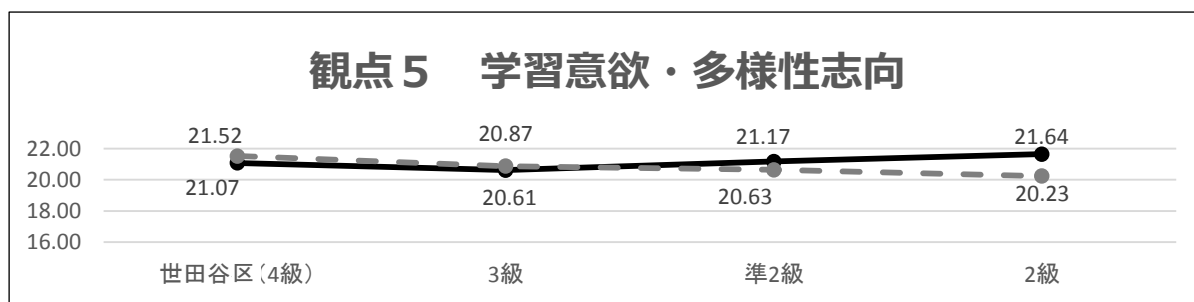
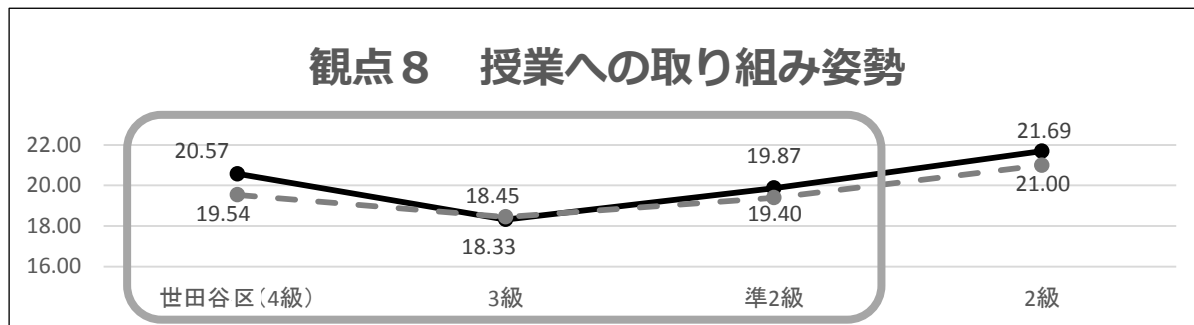
<『語彙・読解力検定』の合否の差>

不合格者と最も大きな差がついているのは観点2（批判的思考・メタ認知）である。合格者は文章を読むとき、「内容をうのみにせず、間違っているかもしれないと考えながら読」んだり、「筆者の主張に対する自分の意見を考えながら」読んだりするなど、主体的な読解の姿勢をもち、「細かいところより先に全体の意味をつかもうとする」俯瞰的な視点をもつことが分かる。

次に差が付いているのは、観点4（言葉への深い関心）である。合格者は「分からない言葉に出会ったら、そのままにせず、調べようとする。」「気になった一つの事柄がきっかけになり、いろいろ調べることがある。」等の態度をもっている。

(キ) 各観点の級別平均得点 (1)

一般受検者も含め合格者は級が上がるほど、観点1（論理的表現・行動）、観点6（社会への興味・関心）、観点2（批判的思考・メタ認知）、観点4（言葉への深い関心）、観点3（問題解決・発見力・思考力）が高い値を示し、不合格者と大きな差が見られる。語彙や知識、読解スキルといったインプットだけでなく、アウトプットに関わる態度・姿勢が高まっていることが分かる。

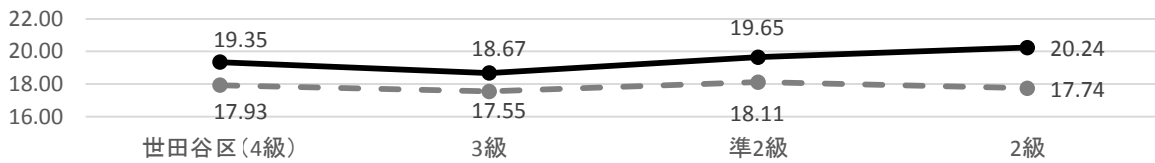


※「とても」=4点、「まあ」=3点、「あまり」=2点、「全く」=1点

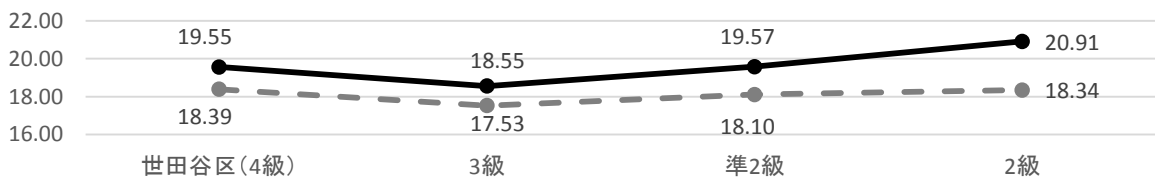
各観点の満点を28点にそろえて比較

※合格者=実線、不合格者=点線

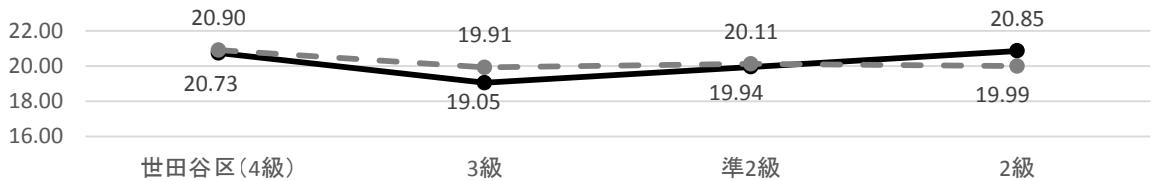
観点2 批判的思考・メタ認知



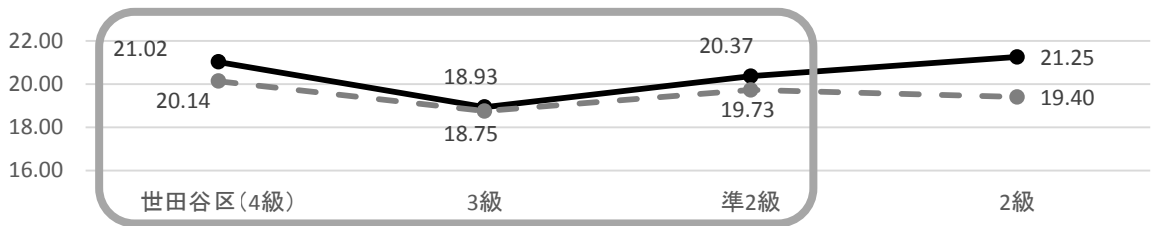
観点4 言葉への深い関心



観点7 適応的学習



観点3 問題解決・発見力・思考力



<世田谷区の生徒の全体像>

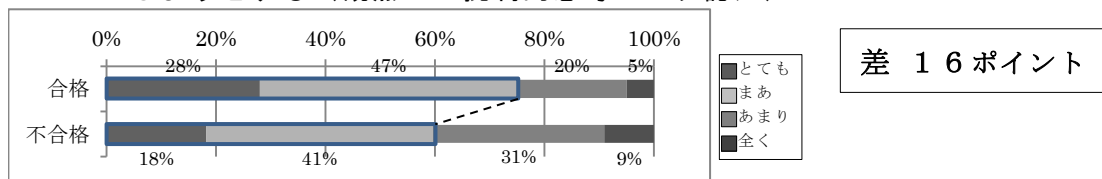
一般的には、級が上がるごとにすべての観点において正比例のグラフができると仮説が立てられるが、世田谷区の結果を照らし合わせると、観点1（論理的表現・行動）は合否に関わらず過去受検者の全ての上位級を大幅に上回る数値となっており、発表や発言に対する基本姿勢ができていることが分かる。

また、観点8（授業への取り組み姿勢）、観点3（問題解決・発見力・思考力）の合格者は、過去受検者の上位級（3級、準2級）を上回る数値となっており、授業への取組が積極的で、議論の際の協同的姿勢が確立している。（グラフの枠囲み）

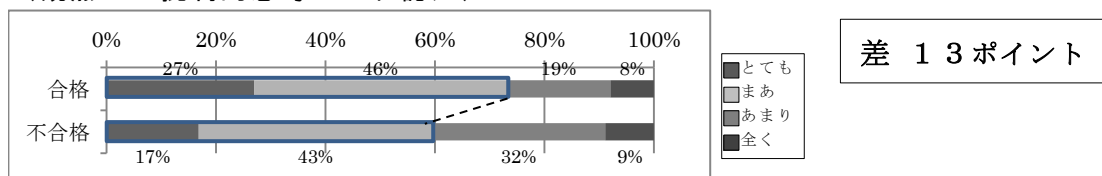
(ク) 主な設問から見た特徴について

合格者は「とても・まあ（あてはまる）」が「あまり・まったく（あてはまらない）」を上回り、不合格者は「とても・まあ（あてはまる）」が「あまり・まったく（あてはまらない）」を下回る傾向があるが、その中でも特に合格者と不合格者の差が大きかった設問について以下に示す。

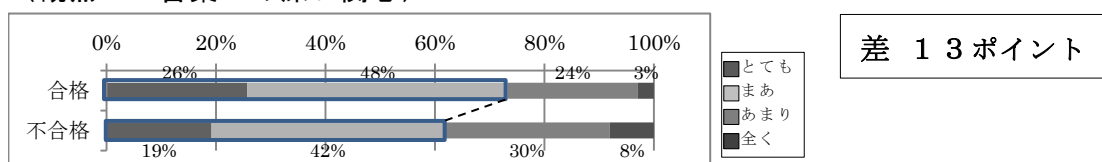
設問 27 文章を読むとき、難しい文があったら、自分の言葉で言い換えながら理解しようとする（観点2 批判的思考・メタ認知）



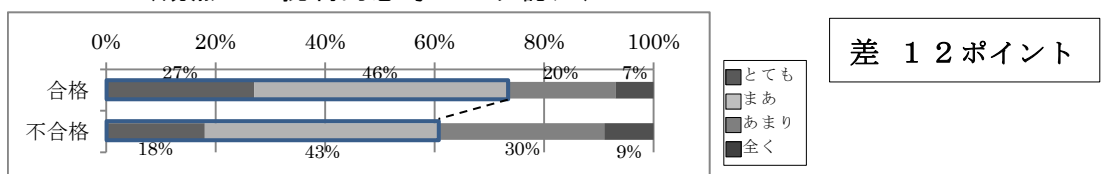
問 30 文章を書いたら、読み直し、読み手にとってわかりやすく修正しようとする（観点2 批判的思考・メタ認知）



問 32 わからない言葉に出会ったら、そのままにせず、調べようとする（観点4 言葉への深い関心）



設問 29 文章を読むとき、細かいところより先に全体の意味をつかもうとする（観点2 批判的思考・メタ認知）



合格者と不合格者の差が大きい設問は、観点2（批判的思考・メタ認知）に多く見られる。

「文章を読むとき、自分の言葉で言い換えながら理解しようとする」「文章を書いたら、読み手にとってわかりやすく修正する」「わからない言葉に出会ったら調べようとする」などの項目に大きな差が見られる。このことから、教員が生徒の主体的な学習活動を促す指導をすることで、より生徒の力を伸ばすことにつながると考える。

(3) 意識調査の主な結果

① 全般的な傾向

- ・教科「日本語」の取組等については、児童・生徒は全般的に肯定的に捉えており、保護者からの評価も高い。
- ・意識調査全体を通して、学年が上がるにつれて肯定的な回答が少なくなってくる傾向があるが、特に中学校第2学年は他学年と比べて、肯定的な割合が低くなっている。
- ・教員は指導内容や方法等に課題を感じている面があるが、児童・生徒の意識との差もある。

※経年比較をした平成24年度実施の意識調査とは、以下の通り実施したものである。

平成24年度『教科「日本語」に関する意識調査』について

【調査の概要】

- ◆調査時期 平成24年11月
- ◆調査対象 区立小・中学校
校長、教員、児童・生徒、保護者
- ◆回答数 校長（小学校64人、中学校29人）
教員（小学校392人、中学校91人）
児童（小学校11548人） ※全学年対象
生徒（中学校2787人） ※全学年対象
保護者（小学校606人、中学校174人）
※対象者の選出方法は学校が任意に依頼

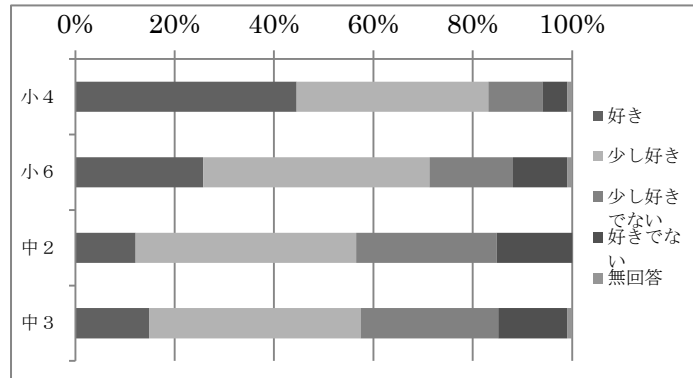
② 主な設問からみえる傾向

ア [児童・生徒]設問 24 : あなたは「日本語」の授業が好きですか

中3は(42)

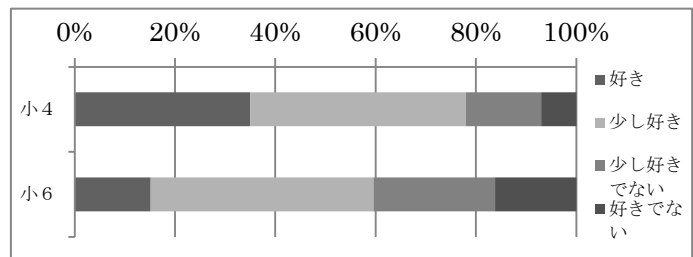
※学年間比較・経年比較

学年	好き	少し好き	少し好きでない	好きでない	無回答
小4	44%	39%	11%	5%	1%
小6	26%	45%	17%	11%	1%
中2	12%	44%	28%	15%	0%
中3	15%	43%	28%	14%	1%



平成24年度調査結果

学年	好き	少し好き	少し好きでない	好きでない
小4	35%	43%	15%	7%
小6	15%	44%	24%	16%



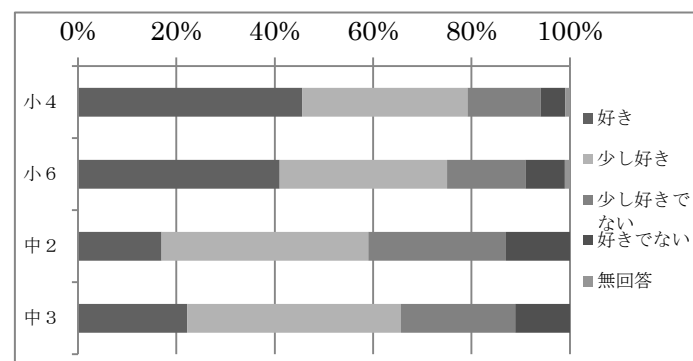
- ・小学校4年生の83%を筆頭に4つの学年のすべてで肯定的な意見（「好き」＋「少し好き」の合計）が半数を超えているが、6年生、中学生と、徐々に学年が上がるにつれて低くなっている。
- ・経年比較においては、平成24年度と比べ、小学4年生では5ポイント、小学6年生では12ポイント肯定的な意見が上昇している。（平成24年度実施の調査項目に中学校2・3年生には、この設問はない。）

イ [児童・生徒]設問 25 : あなたは、日本に伝わる文化について学習することが好きですか

中3は(43)

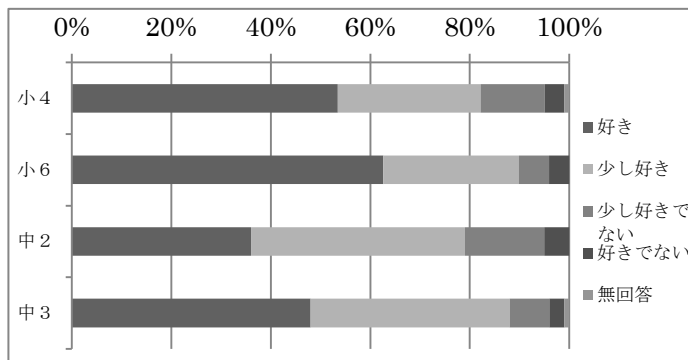
※学年間比較

学年	好き	少し好き	少し好きでない	好きでない	無回答
小4	46%	34%	15%	5%	1%
小6	41%	34%	16%	8%	1%
中2	17%	42%	28%	13%	0%
中3	22%	43%	23%	11%	0%



ウ [児童・生徒]設問 34 : (他の教科に比べて) 日本の伝統や文化を知ることが
 中3は(52) ができる ※学年間比較

学年	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう思 わない	そう 思わ ない	無 回 答
小4	54%	29%	13%	4%	1%
小6	62%	27%	6%	4%	0%
中2	36%	43%	16%	5%	0%
中3	48%	40%	8%	3%	1%

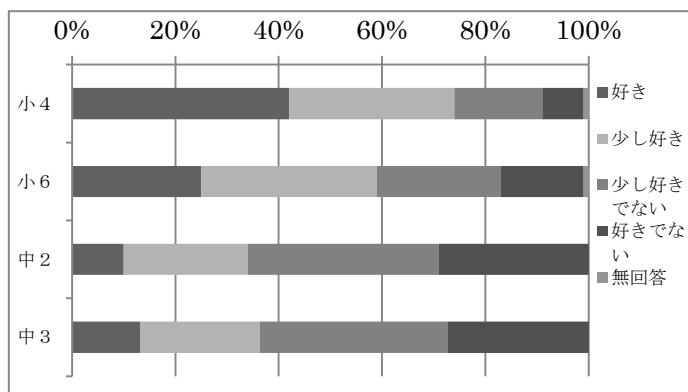


・設問 25、34 の 2 つの設問において、各学年とも肯定的な意見が高く、特に、小学校 6 年生と中学校 3 年生において、肯定的意見が 90% 近くに上っている。これは、教科「日本語」のねらいの一つである、「日本の文化を理解し大切に、継承・発展させる力・態度を育成する」において、一定の水準に達していると考えられる。今後も引き続き、カリキュラム内容の充実に努めていく。

エ [児童・生徒]設問 26 : あなたは、「日本語」の授業で、詩や和歌、俳句、漢詩、論語などを大きな声で音読したり、暗記したりすることが好きです(でした)か。
 中3は(44)

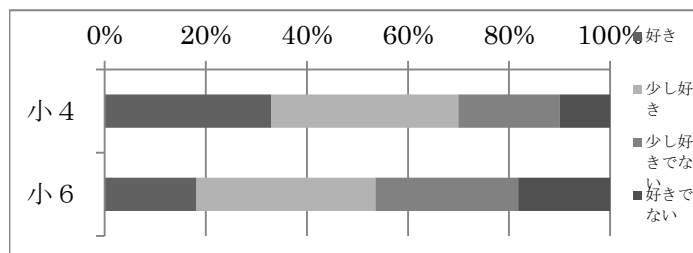
※学年間比較・経年比較

学年	好き	少し好き	少し好きでない	好きでない	無回答
小4	42%	32%	17%	8%	1%
小6	25%	34%	24%	16%	1%
中2	10%	24%	37%	29%	0%
中3	13%	23%	36%	27%	0%



平成 24 年度調査結果

学年	好き	少し好き	少し好きでない	好きでない
小4	33%	37%	20%	10%
小6	18%	35%	28%	18%



- ・小学校4年生は、肯定的な意見が75%程をしめしているが、小学校6年生及び中学生に小学校時代の授業を振り返らせた回答状況を見ると、肯定的な意見が少なく、中学生は3分の2が否定的であることから、今後小学校高学年の内容や指導方法等の改善も視野に入れる必要がある。(平成24年度実施の調査項目に中学校2・3年生には、この設問はない。)

オ [児童・生徒]設問 24 : あなたは「日本語」の授業は好きですか。

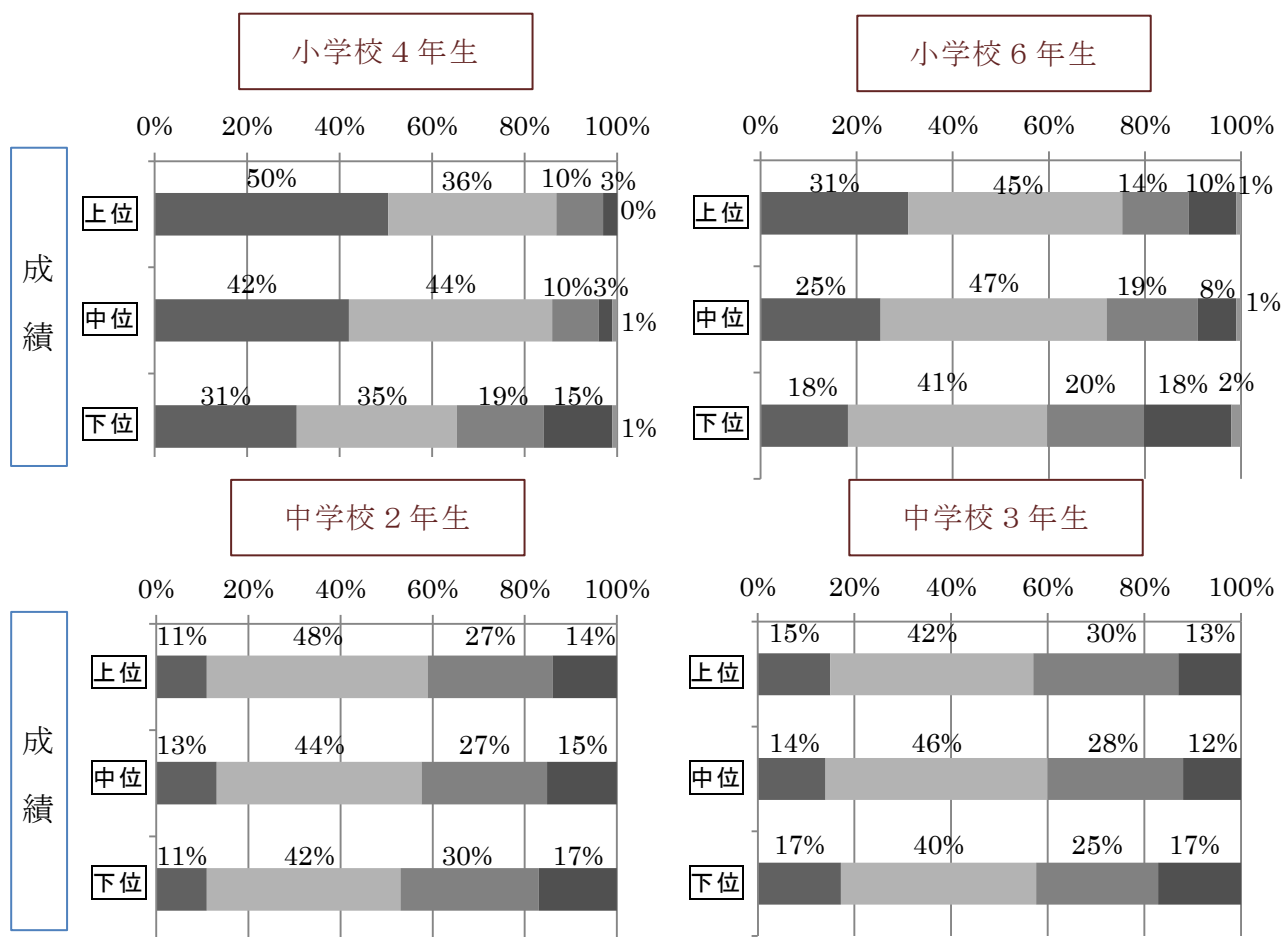
中3は(42)

[児童・生徒]設問 42 : あなたの学校での成績は、だいたいどれくらいですか。

中3は(61)

※2つの項目のクロス集計

※**上位**: 上のほう+真ん中より上 **中位**: 真ん中ぐらい **下位**: 真ん中より下+下のほう で表す。
 ■好き □少し好き ■少し好きではない ■好きではない □無回答



- ・小学校は成績が上位であるほど「好き」が多いが、中学校では成績による差異が見られない。

カ [児童・生徒]設問 26 :あなたは、「日本語」の授業で、詩や和歌、俳句、漢詩、論語などを大きな声で音読したり、暗記したりすることが好きですか。

※小学校6年生ことばの力等に関する調査 クロス集計

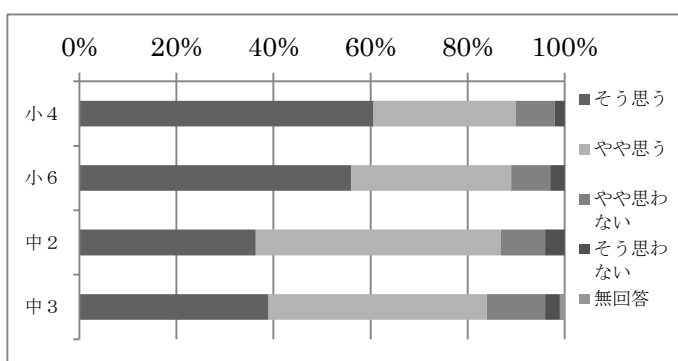
小学6年	全体	大問1	大問2	大問3
学力テスト	正答率	正答率	正答率	正答率
好き	62%	61%	78%	51%
少し好き	58%	52%	77%	50%
少し好きではない	54%	52%	71%	44%
好きではない	51%	45%	66%	43%
平均正答率	57%	53%	74%	47%

・教科「日本語」の教科書の内容について尋ねた大問1の平均正答率は53%であるが、設問26に「好き」と回答した児童の正答率は61%であり、また、「好きではない」と回答した児童の正答率が45%となっている。音読や朗誦を好きな児童ほど、詩や和歌、俳句、漢詩、論語を覚えているということが分かる。

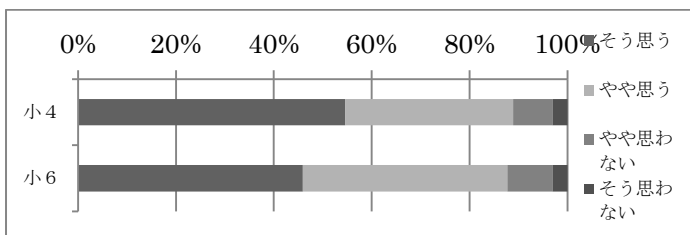
キ [児童・生徒]設問 27 :「日本語」の授業では、あなたがはじめて知ること
中3は(45) が多いですか

※学年間比較・経年比較

学年	そう思う	やや思う	やや思わない	そう思わない	無回答
小4	60%	29%	8%	2%	0%
小6	56%	33%	8%	3%	0%
中2	36%	50%	9%	4%	0%
中3	39%	45%	12%	3%	1%



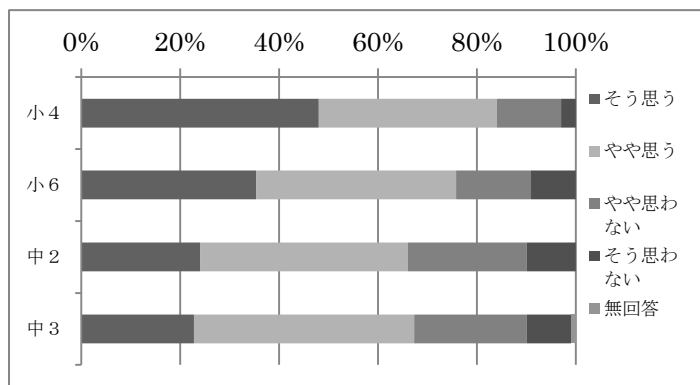
学年	そう思う	やや思う	やや思わない	そう思わない
小4	54%	34%	8%	3%
小6	45%	41%	9%	3%



- ・全体的に肯定的な意見が高い。また、平成24年度の小学校4年生、6年生の調査結果と同等である。小学校においては、古文や論語、漢詩など、中学校においても日本の伝統的な文化の内容などが、初めて知ることにつながっていると考えられる。(平成24年度実施の調査項目に中学校2年生、3年生には、この設問はない。)

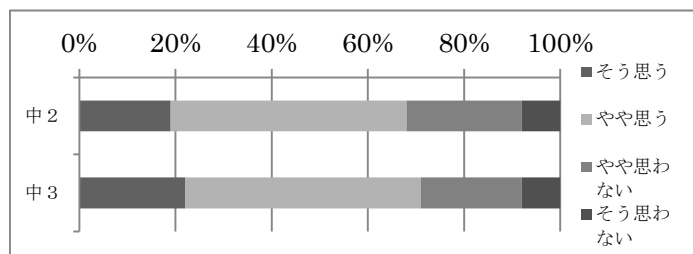
ク [児童・生徒]設問 28 :「日本語」の授業では、自分を成長させる上で大切
中3は(46) であると思いますか。 **※学年間比較・経年比較**

学年	そう 思う	やや 思う	やや 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答
小4	48%	36%	13%	3%	0%
小6	35%	40%	15%	9%	0%
中2	24%	42%	24%	10%	0%
中3	23%	45%	23%	9%	1%



平成24年度調査結果

学年	そう 思う	やや 思う	やや 思わ ない	そう 思わ ない
中2	19%	49%	24%	8%
中3	22%	49%	21%	8%



- ・どの学年も全体的に肯定的な意見が高い傾向にあると考えられる。平成24年度と比べて同等である。(平成24年度実施の調査項目に小学校4・6年生には、この設問はない。)

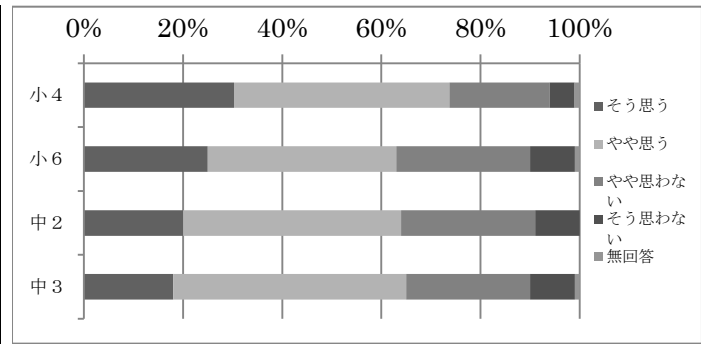
ケ [児童・生徒]設問 30 :「日本語」の授業を通して、自分の考えや気持ちを表現したり、話し合ったりすることによく取り組んでいますか。

中 3 は(48) 表現したり、話し合ったりすることによく取り組んでいますか。
 [児童・生徒]設問 32 : (他の教科に比べて) 自分の意見を自由に言うことができる。

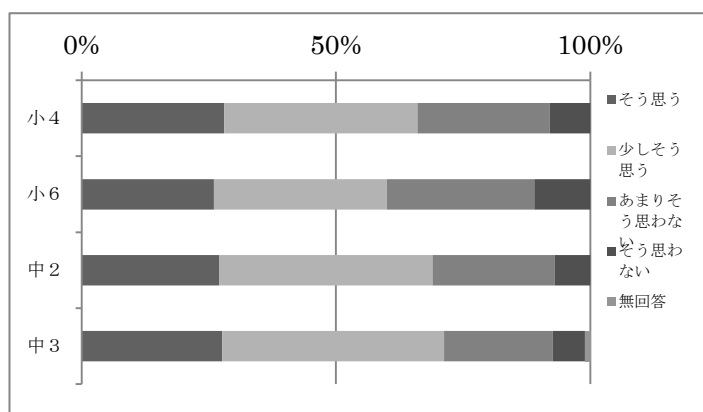
中 3 は(50) できる。
 [児童・生徒]設問 33 : (他の教科に比べて) いろいろなことを深く考えることができる。

※学年間比較

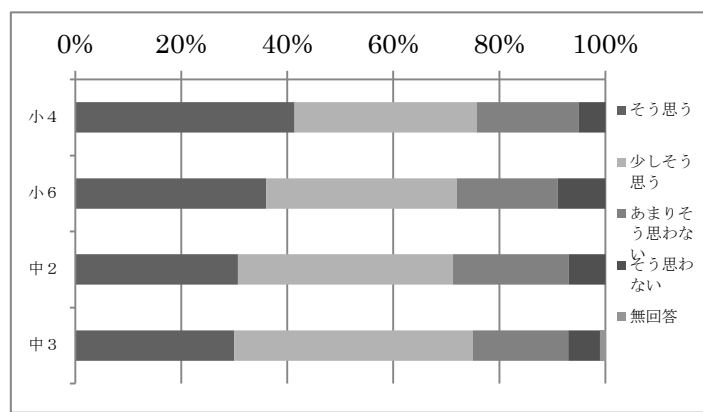
設問 30 (48)	そう 思う	やや 思う	やや 思わない	そう 思わない	無 回答
小 4	30%	43%	20%	5%	1%
小 6	25%	38%	27%	9%	1%
中 2	20%	44%	27%	9%	0%
中 3	18%	47%	25%	9%	1%



設問 32 (50)	そう 思う	少し 思う	あまり 思わない	そう 思わない	無 回答
小 4	28%	38%	26%	8%	0%
小 6	26%	34%	29%	11%	0%
中 2	27%	42%	24%	7%	0%
中 3	26%	41%	20%	6%	1%



設問 33 (51)	そう 思う	少し 思う	あまり 思わない	そう 思わない	無 回答
小 4	41%	34%	19%	5%	0%
小 6	36%	36%	19%	9%	0%
中 2	31%	41%	22%	7%	0%
中 3	30%	45%	18%	6%	1%



- ・ 設問全体としては、学年が上がるにつれて肯定的な意見が減っているが、上記の3つの設問及び設問 31 においては、小学校 6 年生の肯定的な意見が中学生よりも低い。小学校高学年の学習内容について、自分の考えを表現したり深く考えたりするカリキュラム内容にしていく必要がある。

コ [児童・生徒]設問 31～40 :あなたは、他の教科(国語や算数・数学、理科、社会など)と比べて、「日本語」の授業をどのように感じますか

※他教科との違いの設問と成績ごとの関係

そう思う+少し思う (%) の割合		小学校4年生				小学校6年生			
		上位	中位	下位	差 (上位-下位)	上位	中位	下位	差 (上位-下位)
肯定意見	友だちの意見をすることができる	84.7	86.8	69.4	<u>15.3</u>	65.2	66.9	67.6	-2.3
	自分の意見を自由に言うことができる	72.9	66.3	42.4	<u>30.5</u>	64.5	59.5	53.8	<u>10.7</u>
	いろいろなことを深く考えることができる	82.4	74.3	53.5	<u>29.0</u>	77.1	75.0	60.0	<u>17.1</u>
	日本の伝統や文化を知ることができる	88.5	83.3	61.8	<u>26.7</u>	94.2	90.0	79.1	<u>15.1</u>
	社会のできごとを知ることができる	76.9	73.8	59.0	<u>17.9</u>	64.5	64.5	54.7	9.8
	他の教科のように点数で評価されないことがうれしい	44.8	53.6	51.4	-6.5	44.6	53.8	51.6	-7.0
否定意見	授業の内容が難しい	29.4	40.1	47.2	<u>-17.8</u>	27.0	36.9	44.0	<u>-17.0</u>
	昔の言葉がわかりにくい	49.2	60.8	64.6	<u>-15.3</u>	48.1	62.9	64.4	<u>-16.3</u>
	みんなで議論するのはめんどろだ	16.0	20.2	37.5	<u>-21.5</u>	21.4	26.7	42.7	<u>-21.3</u>
	ふだんの生活には役に立たない	21.8	19.0	41.7	<u>-19.9</u>	30.0	32.1	38.2	-8.2

そう思う+少し思う (%) の割合		中学校2年生				中学校3年生			
		上位	中位	下位	差 (上位-下位)	上位	中位	下位	差 (上位-下位)
肯定意見	友だちの意見をすることができる	81.6	82.7	77.2	4.4	67.9	72.2	80.6	<u>-12.8</u>
	自分の意見を自由に言うことができる	74.4	71.0	61.4	<u>13.0</u>	66.8	68.3	64.5	2.3
	いろいろなことを深く考えることができる	75.6	74.7	64.9	<u>10.7</u>	71.8	78.9	74.0	-2.2
	日本の伝統や文化を知ることができる	82.0	82.2	73.1	8.9	91.8	90.6	83.2	8.5
	社会のできごとを知ることができる	66.5	67.6	64.6	1.9	61.1	64.2	69.7	-8.6
	他の教科のように点数で評価されないことがうれしい	66.9	76.9	69.3	-2.4	65.7	70.8	74.3	-8.6
否定意見	授業の内容が難しい	39.5	51.1	48.2	-8.8	37.1	42.5	54.6	<u>-17.5</u>
	昔の言葉がわかりにくい	53.0	63.6	70.2	<u>-17.2</u>	57.9	67.2	74.0	<u>-16.1</u>
	みんなで議論するのはめんどろだ	33.8	41.5	46.5	<u>-12.7</u>	42.1	39.2	46.2	-4.1
	ふだんの生活には役に立たない	42.9	45.2	47.7	-4.8	49.6	44.7	47.4	2.2

- ・成績上位ほど、肯定意見に対して「そう思う+少し思う」の比率が高く、否定意見に対しては低い傾向が見られる。成績上位と下位の差は、小学校4年生で大きい。
- ・小学生にくらべると、成績上位と下位の差は小さくなる。「友だちの意見をすることができる」に関しては、中学3年生で成績下位ほど「そう思う+少し思う」の比率が高い。

サ [児童・生徒]設問 24：あなたは「日本語」の授業は好きですか。

中3は(42)

※その他の質問事項との相関係数を数値で表示

		小学校 4年生	小学校 6年生	中学校 2年生	中学校 3年生
ふだんの生活の様子	学校であったことを家の人と話す	0.228	0.267	0.200	0.188
	新聞やテレビ、インターネットでニュースを見る	0.110	0.152	0.166	0.113
	本(マンガをのぞく)を読むのが好きだ	0.141	0.192	0.138	0.170
	みんなの前で自分の意見を言うことができる	0.218	0.189	0.132	0.145
	自分とちがう意見や考えを聞くことができる	0.278	0.230	0.174	0.204
	今日のできごとを順序だてて説明することができる	0.242	0.247	0.153	0.198
	おもしろかったことや悲しかったことをみんなに伝えることができる	0.255	0.213	0.198	0.185
	ふだんの生活で自分からすすんで文章を書いている	0.243	0.263	0.214	0.247
	自分の好きな言葉がある	0.227	0.359	0.215	0.209
	日本語の響きやリズムが好きだ	0.594	0.604	0.418	0.417
	日本の伝統や文化のよさを外国の人に伝えたいと思う	0.319	0.505	0.352	0.393
	美しい言葉をつかうようにしている	0.340	0.369	0.280	0.335
	勉強の取り組みの様子	授業でわからないことは、わかるまで調べようとする	0.318	0.366	0.235
相手にもわかりやすい言葉や表現を選んで、自分の考えを伝えようとする		0.285	0.334	0.281	0.251
理由もつけて自分の考えを言うようにしている		0.234	0.281	0.238	0.232
いろいろな考え方の人から多くのことを学びたい		0.382	0.406	0.299	0.319
新しいことにチャレンジするのが好きだ		0.288	0.298	0.206	0.249
どんな話題に対しても、もっと知りたいと思う		0.362	0.373	0.288	0.305
社会で問題になっていること(例えば、環境問題や政治問題など)について、興味・関心を持っている		0.262	0.255	0.223	0.254
ニュースで分からないことがあれば、調べてみようとする		0.235	0.296	0.209	0.263
文章を読むとき、筆者の意見と事実とを区別して読もうとする		0.270	0.321	0.207	0.289
わからない言葉に出会ったら、そのままにせず、調べようとする		0.282	0.302	0.223	0.278
授業などで発表するとき、わかりやすいように順番や要点を整理しようとする	0.249	0.331	0.305	0.270	
	小学校 4年生	小学校 6年生	中学校 2年生	中学校 3年生	
授業について	あなたは、日本に伝わる文化について学習することが好きですか	0.599	0.693	0.618	0.677
	あなたは、「日本語」の授業で、詩や和歌、俳句、漢詩、論語などを大きな声で音読したり、暗記したりすることが好きですか	0.583	0.662	0.508	0.531
	「日本語」の授業では、あなたがはじめて知ることが多いですか	0.243	0.221	0.295	0.259
	「日本語」の授業は、自分を成長させる上で大切だと思いますか	0.543	0.597	0.538	0.554
	「日本語」の授業を通して、自分で考えることによく取り組んでいますか	0.515	0.574	0.530	0.527
	「日本語」の授業を通して、自分の考えや気持ちを表現したり、話し合ったりすることによく取り組んでいますか	0.448	0.500	0.502	0.474
他の教科との違い	友だちの意見を知ることができる	0.401	0.370	0.371	0.412
	自分の意見を自由に言うことができる	0.370	0.366	0.341	0.409
	いろいろなことを深く考えることができる	0.428	0.478	0.375	0.460
	日本の伝統や文化を知ることができる	0.362	0.415	0.336	0.341
	社会のできごとを知ることができる	0.328	0.345	0.345	0.344
	他の教科のように点数で評価されないことがうれしい	0.046	0.041	0.114	0.206
	授業の内容が難しい	-0.186	-0.208	-0.139	-0.044
	昔の言葉がわかりにくい	-0.169	-0.177	-0.140	-0.049
	みんなで議論をするのはめんどろ	-0.306	-0.427	-0.395	-0.286
	ふだんの生活には役に立たない	-0.362	-0.473	-0.387	-0.381
成績	あなたの学校での成績は、だいたいどれくらいですか	0.181	0.146	0.051	0.030

※数値は相関係数。相関係数は、完全な不一致「0」～完全な一致「1」の間の数値を取り、1に近いほど関連が強いことを示す。マイナスの数値は逆相関を示す。

※薄い網掛＝弱い相関(0.3以下) 中間の網掛＝中程度の相関(0.3～0.5) 濃い網掛(白抜)＝強い相関(0.5以上)

- ・教科「日本語」について、「好き」「少し好き」の肯定的な回答をした児童・生徒がその他の設問において、肯定的な回答をしている項目との相関関係を調べてみた。

その中で、①「日本に伝わる文化について学習することが好きですか」②「詩や和歌、俳句、漢詩、論語などを大きな声で音読したり、暗記したりすることが好きですか」③「教科『日本語』の授業は自分を成長させる上で大切であると思いますか。」④「教科『日本語』の授業を通して、自分で考えることによく取り組んでいますか」の4項目については、全学年を通して、強い相関関係を示している。

また、「他の教科のように点数で評価されないことがうれしい」の項目とは、相関関係が低い。児童・生徒は評価をする、しないに関わらず、教科「日本語」の授業に取り組んでいることが分かる。

シ [児童・生徒]設問 28:「日本語」の授業では、自分を成長させる上で大切で
中3は(46) あると思いますか。

[児童・生徒]設問 33: (他の教科に比べて) いろいろなことを深く考えるこ
中3は(51) とができる。

※2つの項目の相関係数を表示

小学校 (4・6年)	設問 28	中学校 (2・3年)	設問 28 中3は(46)
設問 33	0.502	設問 33 中3は(51)	0.488

- ・設問 28 と 33 の 2つの項目の相関係数を見ると、どちらも高い相関を表している。これは、教科「日本語」の学習で、いろいろなことを深く考えることができていると感じている児童・生徒ほど、自分を成長させる上で教科「日本語」は大切だと感じていると言える。教科「日本語」のねらいである「深く考える」授業を今後さらに充実させていくことで、教科「日本語」が自分自身を成長させる価値のある教科であると児童・生徒が認識していくと考えられる。

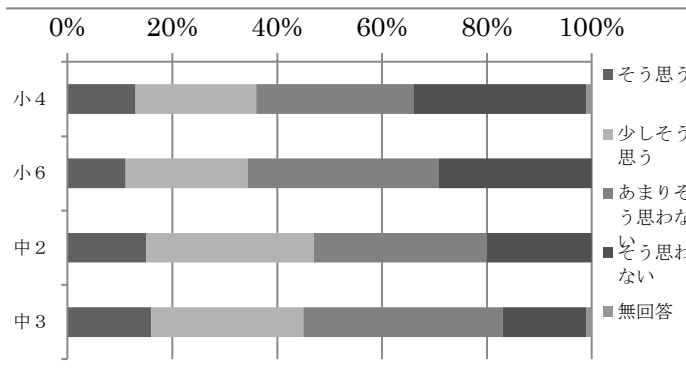
ス [児童・生徒]設問 37：(他の教科に比べて) 授業の内容が難しい

中3は(55)

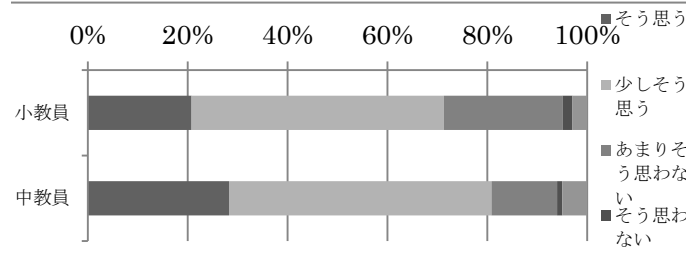
[教員]設問 25：児童・生徒にとって、授業の内容が難しい

※児童・生徒と教員間比較

設問 30 (48)	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう思 わない	そう 思わ ない	無 回 答
小4	13%	23%	30%	33%	1%
小6	11%	23%	36%	29%	0%
中2	15%	32%	33%	20%	0%
中3	16%	29%	38%	16%	1%



設問 25	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう思 わない	そう 思わ ない	無 回 答
小 教 員	21%	51%	24%	2%	3%
中 教 員	28%	52%	13%	1%	5%



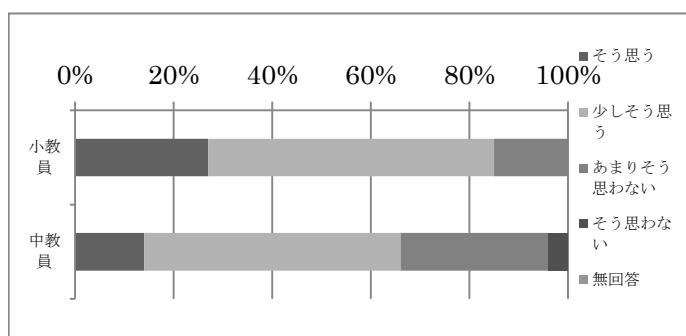
- ・ 小学校4年生、6年生の児童は比較的難しいと感じている割合が30%台であることに対して、小学校教員は、72%が難しいと考えている。また、中学校2年生、3年生の生徒は比較的難しいと感じている割合が40%台であることに対して、中学校教員は、80%が難しいと感じている。児童・生徒は、教員が感じているほど授業の内容を難しいと感じていないことが分かる。

セ [教員]設問 9：児童・生徒は、「日本語」の授業に前向きに取り組んでいる

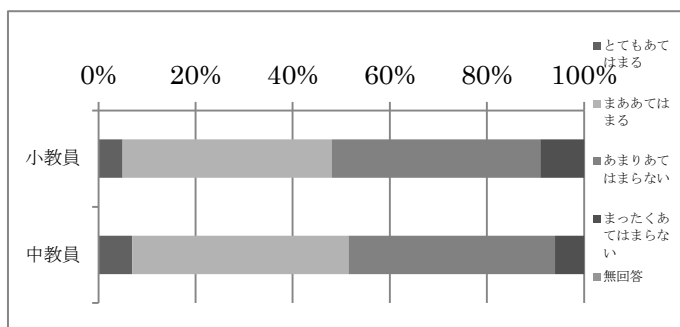
[教員]設問 11：児童・生徒は、「日本語」の授業を通して、自分の考えを表現したり話し合ったりするようになってきた

※小・中学校教員間比較

設問 9	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう思 わない	そう 思わ ない	無 回 答
小 教 員	27%	58%	15%	0%	0%
中 教 員	14%	52%	30%	4%	0%



設問 11	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう 思 わない	そう 思 わ ない	無 回 答
小 教 員	5%	43%	43%	9%	0%
中 教 員	7%	45%	43%	6%	0%

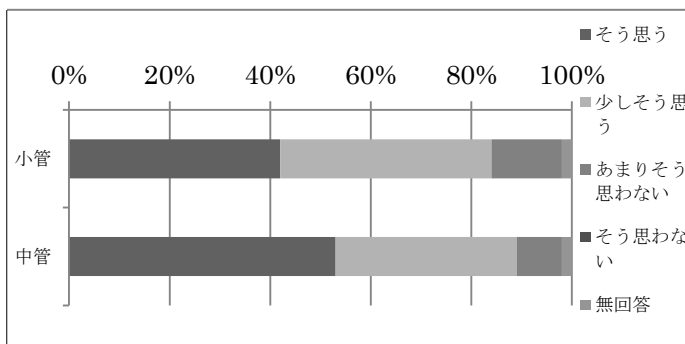


・設問9について、小学校教員と中学校教員では、小学校教員の方が、児童・生徒が前向きに取り組んでいると感じている。また、設問11については、小学校教員よりも中学校教員の方が高い評価であった。小学校の学習においては、朗読の学習が多いが、自分の考えを表現したり話し合ったりする機会が少ないと捉えていることが分かる。朗読においても自分の考えを伝え合ったり、振り返ったりする学習過程を取り入れることが必要である。

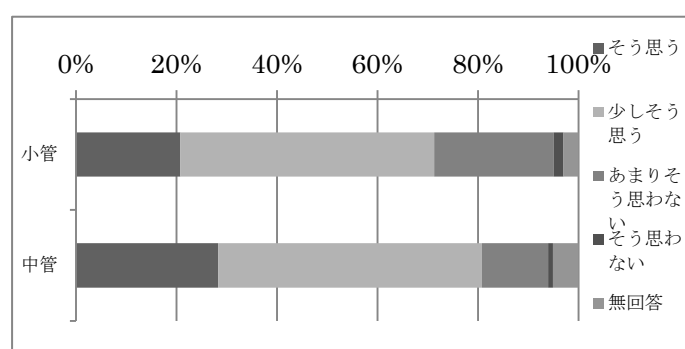
- ソ [管理職]設問24:「日本語」の授業は、教員によって指導力の差が大きい
- [管理職]設問25:「日本語」の授業の準備は教員の負担になっている
- [教員]設問16:「日本語」の授業の準備は負担になる

※管理職と教員間比較

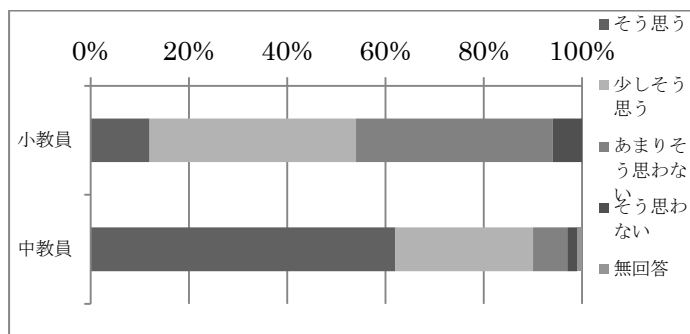
設問 24	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう 思 わない	そう 思 わ ない	無 回 答
小 管	42%	42%	14%	0%	2%
中 管	53%	36%	9%	0%	2%



設問 25	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう 思 わない	そう 思 わ ない	無 回 答
小 管	21%	51%	24%	2%	3%
中 管	28%	52%	13%	1%	5%



設問 16	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう思 わない	そう 思わ ない	無 回 答
小 教 員	12%	42%	40%	6%	0%
中 教 員	62%	28%	7%	2%	1%

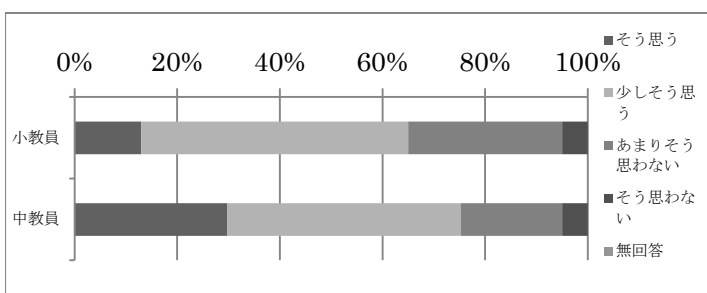


・小・中学校管理職は、ともに教科「日本語」の授業は、教員の指導力の差が大きいと感じている。また、教科「日本語」の授業の準備を負担に感じる割合は、管理職と教員両方とも、小学校よりも中学校が非常に高い結果であった。日頃から教科「日本語」の授業を含めて様々な教科を教えている小学校の教員に比べて、自分の専門教科の授業が中心の中学校教員は教科「日本語」の準備が負担になっているものと考えられる。担当の準備の負担を軽くするような指導資料集やデジタル教材等をさらに充実させるなどの支援が必要である。

タ [教 員]設問 13：あなたの学校では、「日本語」の授業について、教員の間で教材の共有や情報交換が行われている

※小・中学校教員間比較

設問 16	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう思 わない	そう 思わ ない	無 回 答
小 教 員	13%	52%	30%	5%	0%
中 教 員	30%	46%	20%	5%	0%

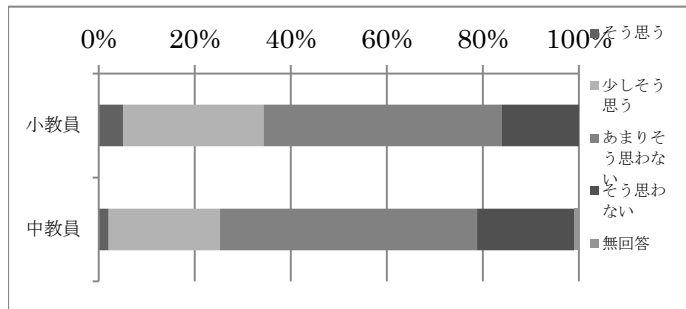


・小学校教員よりも、中学校教員の方が、教材の共有や情報交換を行っているのが分かる。小学校教員は、担任が授業の計画を立てているのに対し、中学校では、教科「日本語」を担当している教員同士で情報交換しながら学習を進めている学校が多いと思われる。

チ [教員]設問 17：教科書の内容は、児童・生徒の実態と合っている。

※小・中学校教員間比較

設問 16	そう 思う	少し そう 思う	あまり そう 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答
小 教 員	5%	29%	49%	16%	0%
中 教 員	2%	23%	53%	20%	1%

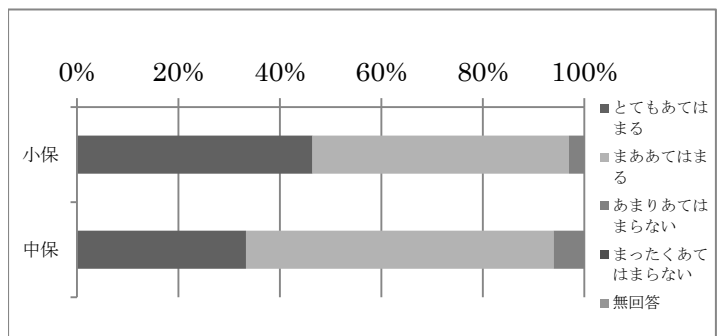


・小学校教員の肯定的な意見は34%、中学校教員が25%にとどまった。いずれも実態に合っていないと感じており、今後、どのようなカリキュラムにしていくのか検討していく必要がある。

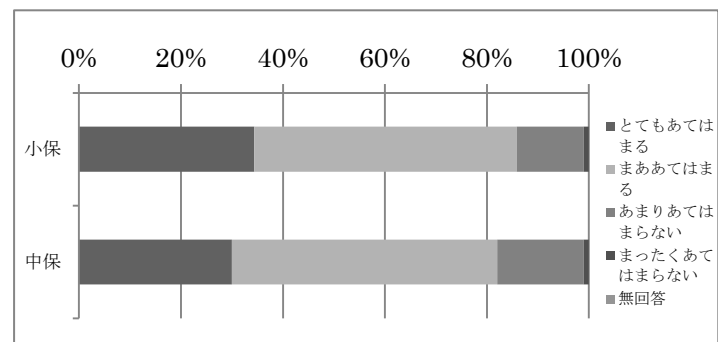
ツ [保護者]設問 16：日本の文化や言葉を大切にしたいと思っている

[保護者]設問 17：外国の文化や言葉に関心がある

設問 16	とても あては まる	まあ あては まる	あまり あては まらない	まった くあて はまら ない	無 回 答
小保	46%	50%	3%	0%	0%
中保	33%	60%	6%	0%	0%



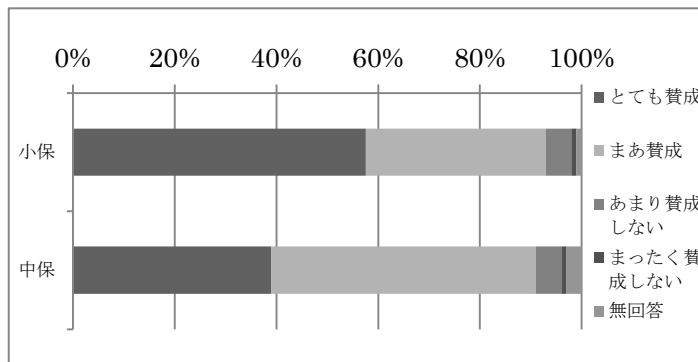
設問 17	とても あては まる	まあ あては まる	あまり あては まらない	まった くあて はまら ない	無 回 答
小保	34%	51%	13%	1%	0%
中保	30%	52%	17%	1%	0%



・保護者は、外国の文化や言葉に対する関心が高いが、日本の文化や言葉を大切にしたいという思いは90%を超えており、かなり高い結果となっている。

テ [保護者]設問 27：世田谷区が「日本語」の授業を行っていることについて
賛成である

設問 27	とても 賛成	まあ 賛成	あまり 賛成し ない	まった く賛成 しない	無回 答
小保	57%	35%	5%	1%	1%
中保	39%	52%	5%	1%	3%



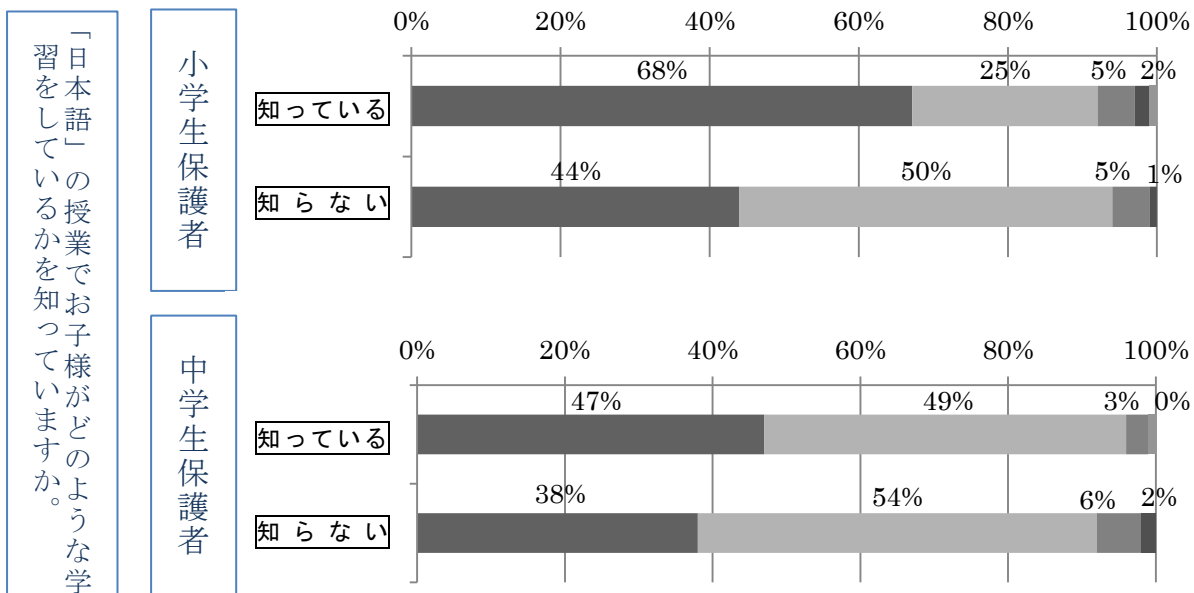
ト [保護者]設問 27：世田谷区が「日本語」の授業を行っていることについて
賛成である

[保護者]設問 19：あなたは、「日本語」の授業でお子様がどのような学習を
しているかを知っていますか。

※2つの項目のクロス集計

知っている：「よく知っている」＋「だいたい知っている」
知らない：「知っている」＋「あまり知らない」＋「全く知らない」

■ とても賛成 ■ まあ賛成 ■ あまり賛成しない ■ まったく賛成しない ■ 無回答



- ・教科「日本語」の取組について、小・中学校の保護者ともに、90%以上の肯定的な意見であり、評価されている。また、教科「日本語」の内容を知っているかについて尋ねた設問とのクロス集計をしたところ、「知っている」と回答した層の方が賛成の割合が高い。

③ 自由記述の回答から（抜粋）

○小学校4年生

- ・日本語の授業では、他の教科に比べて、情景を想像することができるところが特に好きです。百人一首が楽しかったです。
- ・詩や俳句などは暗唱するだけではつまらない。暗唱するのが苦手。

○小学校6年生

- ・日本語では昔の人の思いなどがかかれています、それを見付けるのがすごく好きです。
- ・日本語は自分の意見を発表したり、相手の意見を聞けるので楽しいのですが、音読したり覚えたりすることが何の役に立つのかよく分からないと思います。

○中学校2年生

- ・日本語は他の教科とは違い、見方を変えたりして、答えを探すことがおもしろいと思う。色々な考え方をするのでいつも新たな発見ができ、そこが私は好きだ。
- ・意見をみんなの前で発表するのは嫌いだけど、日本の伝統や社会を知ることができるので日常生活で役立つ。
- ・本当にこれからの役に立つことなのかと思うようなことを学ぶことがあるから、学ぶならもっと身近なことを学びたい。

○中学校3年生

- ・物事に対して深く考えて、それを他人に発表したり他人の発表を聞いたりして納得のいくこと、いかないことを整理した上で新しい自分の考えをもてるのが楽しい。
- ・日本語の授業で心に残った言葉があって、それを今も大切にしている。
- ・日本の伝統文化に直接触れることはよい機会だと思う。ただ話し合うだけではつまらない。また、哲学などの文章が難しいものは嫌い。
- ・やっても意味がないと思う。古文なら国語、歴史なら社会で学ぶことができるから。

○小学校 管理職

- ・教科「日本語」を通して普段触れない学習をすることは大切だと思う。1時間1時間をきちんとやること、そして振り返ることが大切であると思う。教員の意識の差が成果の差になっていることが気になる。意識の向上に努めたい。
- ・教科「日本語」のねらいにある通り、日本語の美しいリズムや言葉のもつ力の学習を通して感受性を高めることができる。

○中学校 管理職

- ・常識、教養のようなものに触れるよい機会と捉えている。これからの生き方において、多面的・多角的にもものを見つめ、考え、知る事につながる教科であると捉えている。教員にとっても、教科「日本語」に関わり、本来生徒に身に付けさせたい力、育成すべき態度について理解を深めることにつながると捉えている。
- ・教科「日本語」のもつ理念はすばらしいと思う。それをどう実践し、生徒に伝え、深く考えることができる授業展開にできるのかが課題である。

○小学校 教員

- ・低学年から暗唱カードに積極的に取り組んでいます。深い意味は分からなくても、リズムや響きに小さいうちから耳で覚えておくことはとてもよいと思います。
- ・漢詩や詩などは難しいものも多く、子どもが文字から想像したり、情景を思い浮かべたりすることに困難さを感じます。しかし、リズムのあるもの、枕草子、宮澤賢治、百人一首…は子どもが楽しみながら学んでいるように思います。特に、百人一首は日本の文化として扱うことができ、カルタ会を催すことができるのでありがたいです。日本の言葉についてこだわって学習できる時間が確保されていることは助かります。外国に行ったときに、日本文化を語れる子どもに育てたいです。

○中学校 教員

- ・生徒の実態や学校行事等に合わせて内容を考えたり、単元配列を変えたりすることで、より教科「日本語」の授業が生徒の生活に生かされ、ねらいにある力が身に付けられるように思う。
- ・たいへん興味深い教材もあり、生徒が前向きに取り組めれば指導の効果や影響が及んでいくものであると思います。問題はどのようにやって指導体制や協力体制をつくっていくか、また、教材研究に十分な時間をどう確保できるかだと思います。

○小学校 保護者

- ・この意識調査の機会にゆっくりと日本語の教科書を読みました。先生方が、児童に知ってほしい、感じてほしい「ことばの大切さ」をぎゅっとまとめてあるこの教科書は、進学しても家の机に立て、ふとしたときに開いてみるとよいと思いました。
- ・日本語を取り上げて学ぶということには賛成ですが、ただ音として覚えるだけの側面があり、意味や歴史背景にまで至らないのが残念な気がします。

○中学校 保護者

- ・自分の考えを表現することはとても重要だと思うので、よい取組だと思う。日本独特の文化を学ぶことは日本人としても大切であり、子どもが大人になった際に継承していくという意味でも大切だと思う。お互いの意見を出し合い、関係を構築することは、成長する上でとても大事だと思う。コミュニケーションをたくさんとり、ぶつかり、成長してほしいと思う。
- ・日常の子どもたちの言葉遣いを聞くと、とても悪いことが多い。日本語の授業を通して、言葉の使い方や人に感動などを与える力があることを学んでほしい。

○卒業生

- ・日本人として知っておくべきことや物事の本質について深く考えたことが心に残っている。また、理解を深めるために、実際に体験したことがとても楽しく、興味をもつことができた。
- ・実際に授業で扱った内容をうまく生かしているかというところでもないが、他人の意見を聞き入れ、自分の意見を伝えるという作業においては役に立っていると思う。

(4) 実態調査結果に関する考察

- ①小学校6年生の「ことばの力等に関する調査」の大問1について、暗記することがねらいではないこともあり、正答率は高くない。(p9) ただし、クロス集計の結果を見ると「朗読する学習が好き」な児童は、大問1の正答率が高い。(p31) また、大問3など、論点を整理して記述する設問の正答率が低いこと(p10、11)については、朗読に対する肯定的評価の低下(p29)もあり、「深く考える」力を高めることをねらいとした題材を充実することなどを検討する必要がある。(p9,10)
- ②中学校3年生の「ことばの力等に関する調査」の結果は、全般的に優秀な成績であった。(p18) 特に、新聞語彙の得点率は、かなり高い。これは、中学校2年生を対象として取り組んでいる朝学習(新聞の社説を読んで、要約したり、小見出しを付けたりする世田谷区独自の取組)の成果も影響していると考えられる。(p19)
- ③中学校3年生は、「ことばの力等に関する調査」の合否(正答率の高低)に関わらず、学習意欲が高い。特に中学校3年生の「ことばの力等に関する調査」合否の差を分けたものは、観点2(批判的思考・メタ認知)、観点4(言葉への深い関心)であり、主体的に学ぶ姿勢が身に付いていることが要因と考えられる。(p23)
- ④ことばに関する態度・姿勢のアンケートに係る因子分析の観点との比較結果としては、観点1(論理的表現・判断)は、合否に関わらず過去受検者の全ての上位級を大幅に上回る数値となっており、発表や発言に対する基本姿勢ができていることが分かる。(p24、25) また、観点8(授業への取り組み姿勢)、観点3(問題解決・発見力・思考力)の合格者は、過去受検者の上位級(3級、準2級)を上回る数値となっており、授業への取組が積極的で、議論の際の協同的姿勢が確立しているといえる。(p24、25)
- ⑤合格者と不合格者の差が大きい設問は、観点2(批判的思考・メタ認知)に多く見られる。「文章を読むとき、自分の言葉で言い換えながら理解しようとする」「文章を書いたら、読み手にとってわかりやすく修正する」「わからない言葉に出会ったら調べようとする」などという項目に大きな差が見られる。このことから、教員が生徒の主体的な学習活動を促す指導をすることで、より生徒の力を伸ばすことにつながると考えられる。(p26)

- ⑥児童・生徒の意識調査については、平成24年度調査の同一項目と比べて、全般的には大きな変化は見られない。(p 28, 29, 31, 32) 教科「日本語」の好き嫌いについては、小学校4年生の83%を筆頭に4つの学年のすべてで肯定的な意見が半数を超えているが、6年生、中学生と、徐々に肯定的評価が減少しているのは、考慮する必要がある。また、小学校6年生では、小学校4年生に比べて「朗読」に対する肯定的評価が低くなる。(p 29)
- ⑦教科「日本語」の授業は、「自分を成長させる上で大切であると思っている」と回答した児童・生徒は、「他教科に比べていろいろなことを深く考えることができる」と回答している層との相関係数が高く、こうした授業の充実が重要であることが分かる。(p 36)
- ⑧教科「日本語」の教材文は、難しいと捉えられがちであるが、児童・生徒は授業の内容をそれほど難しいと感じていないことが分かる。(p 37) これは、国語の授業で古文や漢文の読解をすることとは異なるためだと考えられる。
- ⑨小・中学校教員の意識調査の比較では、小学校教員は子どもたちが教科「日本語」に前向きに取り組んでいると感じている率が高い。また、中学校教員は、授業の準備に負担を感じている割合が多い。(p 37, 38) これは、全科担任で様々な授業を日常的に行っている小学校教員に比べて、自らの専門教科を教えることが中心の中学校教員との意識の差も影響していると思われるが、指導資料やデジタル教材の準備など、授業準備の負担を軽くする方策をさらにしていく必要がある。(p 38, 39) また、授業をする教員は、教科書が児童・生徒の実態と合っていないと考えている者もあり、改めて、カリキュラムの検討をする必要がある。(p 40)
- ⑩保護者は、小・中学校ともに、90%以上の方が教科「日本語」の取組を肯定的に捉えている。また、その内訳として「教科『日本語』の授業の内容を知っている」層の方が賛成の割合が高くなっている。(p 41)

4 学習指導要領と教科「日本語」

教科「日本語」は、その創設当時の学習指導要領（平成10年12月告示）の国語科において規定されていなかった学習内容が、その後の学習指導要領の改訂の際に、古典などの伝統的な言語文化に関する指導が重視されてきたことによって、特に「日本語の響きやリズム」の内容を中心に、ねらいや学習内容が重複する部分が見られる。そこで、以下に、学習指導要領と「日本語の響きやリズム」について整理した。

(1) 学習指導要領と教科「日本語」における「日本語の響きやリズム」に関する内容の関係

（第3回教科「日本語」検証・検討委員会 廣川 加代子 委員（新渡戸文化短期大学教授 東京学芸大学非常勤講師）の資料より）

①事項の変遷

ア 平成10年告示小学校学習指導要領（国語）

第5学年及び第6学年

〔言語事項〕エ 文語調の文章に関する事項

（ア）易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しむこと

（平成元年度版は「音読し」は「読んで」）

イ 平成20年告示小学校学習指導要領（国語）

第1学年及び第2学年

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

ア 伝統的な言語文化に関する事項

（ア）昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

第3学年及び第4学年

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

ア 伝統的な言語文化に関する事項

（ア）易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたりリズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

（イ）長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

第5学年及び第6学年

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

ア 伝統的な言語文化に関する事項

（ア）親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

（イ）古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

②学習指導要領での位置付けと定義

ア 学習対象

小学校第1学年及び第2学年：昔話や神話・伝承

小学校第3学年及び第4学年：文語調の短歌や俳句 ことわざや慣用句、故事成語

小学校第5学年及び第6学年：古文や漢文、近代以降の文語調の文章 古典について解説した文章

中学校：古典（古文・漢文）

イ 「言語文化」の定義

言語文化とは、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた文化的に高い価値をもつ言語そのもの、つまり文化としての言語、また、それらを実際の生活で使用することによって形成されてきた文化的な言語生活、更には、古代から現代までの各時代にわたって、表現し、受容されてきた多様な言語芸術や芸能などを広く指している。（『小学校学習指導要領解説 国語編』 p23～24）

- ・この定義による「伝統的な言語文化」の位置づけは、近代以前のものに限定されていた従来の古典教材の枠組みを見直す上で重要な契機となる。

③学習活動の系統性

ア 内容と学習活動

各学年の指導内容についての具体的な学習活動

低学年では、昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること、中学年では、易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすることや、長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと、高学年では、親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読することや、古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ることを示している。

（『小学校学習指導要領解説 国語編』 p24 下線は引用者）

- ・国語科の「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」全領域で計画的な学習活動を行うよう定めている。これまで中学校・高等学校で行われてきた古典教育のような知識に重点を置いた学習が目指されているのではないことは明らかである。加えて単なる知識の「習得」とどまらず「活用」が目指されていると読み取ることができる。

イ 系統性

- ・第1・2学年の昔話や神話・伝承は口づてに伝えられてきた言語文化であるため、読み聞かせや語り合う学習が求められる。「A 話すこ

- と・聞くこと」の言語活動例「物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること」と関連している。←入門期としての昔話や伝説
- ・第3・4学年の「易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること」、第5・6学年の「親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について内容の大体を知り、音読すること」と関連して、「B書くこと」の言語活動例「経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句を作ったり、物語や随筆などを書いたりすること。」を挙げることができる。←文語調に親しむ系統
 - ・文学史のジャンルに基づく概念によって学年に割り当てられている。これは一つの見識ではあるが、内容面での継続性・系統性については実際の学習活動に工夫が求められるといえる。適切かつ実効性を発揮するには伝統的な生活様式、美意識、感受性、認識の仕方等の学習も目指されてよいのではないか。(花鳥風月 雪月花 自然物 天象物 動植物等)

④中央教育審議会答申（平成20年1月）国語科改善の基本方針

〔言語文化と国語の特質に関する事項〕

我が国の言語文化に親しむ態度を育てたり、国語の役割や特質についての理解を深めたり、豊かな言語感覚を養ったりするための内容を示す。

「改善の具体事項」

- (ア) 物語や詩歌などを読んだり、書き換えたり、演じたりすることを通して、言語文化に親しむ態度を育成する。
- (イ) 言語文化としての古典に親しむ態度を育成する指導については、易しい古文や漢詩・漢文について音読や暗唱を重視する。
- (ウ) 教材については、我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるよう、長く親しまれている和歌・物語・俳諧、漢詩・漢文などの古典や、物語、詩、伝記、民話などの近代以降の作品を取り上げるようにする。 (下線は引用者)

- ・ここに文学史ジャンルによって示されたことが、教材化すべき作品についての議論の不十分さを生んだといえる。様々な形態の古典作品群を単元主題にも配慮して柔軟に教材化する必要がある。(例 日本の四季 自然と生活 出会いと恋 生と死)

⑤「言語活動の充実」について

思考力・判断力・表現力を高めるために言語活動を充実させて言語の能力を高めることが、「各教科を貫く重要な改善の視点」として「教育内容に関する主な改善事項」の第1に掲げられた。その中であって、国語科はその達成のための言語能力を培うことが求められた。

中央教育審議会答申（平成20年1月）改善の具体的方針

（ア）「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域では、日常生活に必要とされる対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう、継続的に指導することとし、課題に応じて必要な文章や資料などを取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。

例えば、低学年では、見たことや知らせたいことを記録し説明や紹介をしたり、体験したことを報告したりすることができる、中学年では、調べたことや観察・実験したことを記録・整理し、説明や報告にまとめて書き、資料を提示しながら発表することができる、高学年では、目的に応じて自分の立場から解説や意見、報告を書き、理由や根拠を示しながら説明することができるとともに、自らの言語活動を振り返ることができる能力などの育成を図る。

〔言語文化と国語の特質に関する事項〕では、物語や詩歌などを読んだり、書き換えたり、演じたりすることを通して、言語文化に親しむ態度を育成することを重視する。また、認識や思考及び伝え合いなどにおいて果たす言語の役割や、相手に合わせた言葉の使い方や方言など、言語の多様な働きについての理解を重視する。なお、発音・発声、文字、表記、語彙、文及び文章の構成、言葉遣い、書写などについては、実際の言語活動において有機的にはたらくよう、関連する領域の内容に位置づけるとともに、必要に応じてまとめて取り上げるようにする。
(下線は引用者)

⑥国語科の目標の変遷

（ア）国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、（イ）伝え合う力を高めるとともに、（ウ）思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。（現行）

（ア）は平成10年版で「正確に理解する能力」と「適切に表現する能力」との順序の入れ替えがあった。両者は「交互に表裏一体的な関係として、連続的かつ同時的に機能するものであるが「自分の考えを自分の言葉で積極的に表現する能力や態度を重視し」（解説）た。（イ）は平成10年版で新たに加えられたが「『伝え合う力』とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力でもある。これからの情報化・国際化の社会で生きて働く国語の力であり、人間形成に資する国語科の重要な内容となるものである。」（解説）とされている。平成元年版で（ウ）「思考力や想像力を養い」が加えられた。「これからの社会の変化に主体的に対応するためには、思考力、判断力、適切な表現力などの育成が大切で

ある。わけても、自分の発想を生み出すもとになる論理的な思考力や想像力、直観力などを養うことは重要である。」(解説)

⑦まとめ(①～⑥から)

- ・教科「日本語」には「言語文化」「伝統的な言語文化」の語は見られない。(先行していたためでもある。)扱っているのは俳句・短歌・漢詩・論語・詩・古文と世田谷の民話である。国語科と比べてみると、「昔話、神話・伝承」がなく、「漢詩」が量的に突出している。(単元数は第1学年から第6学年まで順に8・12・11・11・14・13)
- ・第1学年に4か所ある「季節を楽しもう」と、第2学年「季節を感じる言葉を探そう」は、国語科教科書では多くのページを割けない単元である。「伝統的な言語文化」に親しむことを支える良質なページといえる。加えて、第3学年「日本の四季・年中行事」も探究のできる単元的なページであり、第5・6学年に工夫したページを設けると系統性をもたせることができる。ひとまとまりの単元が作ればよい提案となろう。
- ・教科「日本語」が今もっている量的な財産を大切にしつつ質を高めていくとしても、漢詩の数を減じる方向性は検討する必要があるだろう。
- ・幼児教育で使われる「言語文化」として、パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、絵カード、すばなし、紙芝居、絵本の読み聞かせ等が学生用テキストで取り上げられている。ペープサートは子どもの表現活動としてよく扱われ、それ以外は保育者が演じることが多く、ことばあそびやわらべうたを含めて子どもの表現活動に取り入れる方向性も考えられよう。
- ・国語科では第1・2学年が昔話や神話・伝承の読み聞かせや語り合いを行うものの、それは口語訳となっているため、教科「日本語」が原文で提示し音読させていることは大きな特徴といえる。
- ・「言語活動の充実」について、教科「日本語」は質のよい学習の機会をさらに提供していく必要があるだろう。
- ・昭和33年以降、国語科は「言語の学習」という自覚のもとに改革が進められてきた。明確な「ねらい」を達成するための強度をもつ立場から見ると、教科「日本語」は国語科で身に付けた言語の力に助けられながら、トピックを取り上げたり、補充をしたり、発展させたりしている印象を受ける。よりよく関連を図って独自性を出していくべきであろう。
 - a 「国語の特質に関する事項」の「文字」や「語彙」、「言葉遣い」のページはあっても悪くはないが、貴重な時間数を考えるときに優先される内容であるかは疑問である。第1・2学年の「書写」

は、単元的な展開や世田谷らしさが出せるのであれば、引き継ぐ可能性はあるかもしれない。

b 第1・6学年のように音声言語による論理的思考力を扱うのであればある程度の系統性が求められるだろう。

c C「読むこと」領域の音読（朗読）、読書が扱われることは好ましいかもしれない。

- ・発足にあたっては「伝統的な言語文化」の提案性と豊富な作品数で「国語科」とまた違ったよさをもたらしたが、「国語科」が次期改定で言語の仕組みの理解へ重心が移る方向性をもつとすると、内容主義や教養主義はよさもある一方で古い感じを受ける。
- ・教科「日本語」という顔と中学校の「哲学」「表現」「日本文化」の語を大事にし、世田谷区に関わる人たちの願いをもとに、くり返しになるが独自性をもつことが求められるだろう。「国語科」との関連を意識し過ぎることなく、大人のわたしたちが探究的に教科「日本語」をつくることを試み、今を生きる世田谷の子どもたちによりよいものをもたらすという姿勢を確認したいように思う。

(2) 教科「日本語」における「日本語の響きやリズム」に関する取扱い
世田谷区教育要領において、以下のように示している。

第2章 教科「日本語」 第2 「世田谷9年教育」で育てたい力・資
質の育成のために大切に学習 (抜粋)

1 豊かな人間性

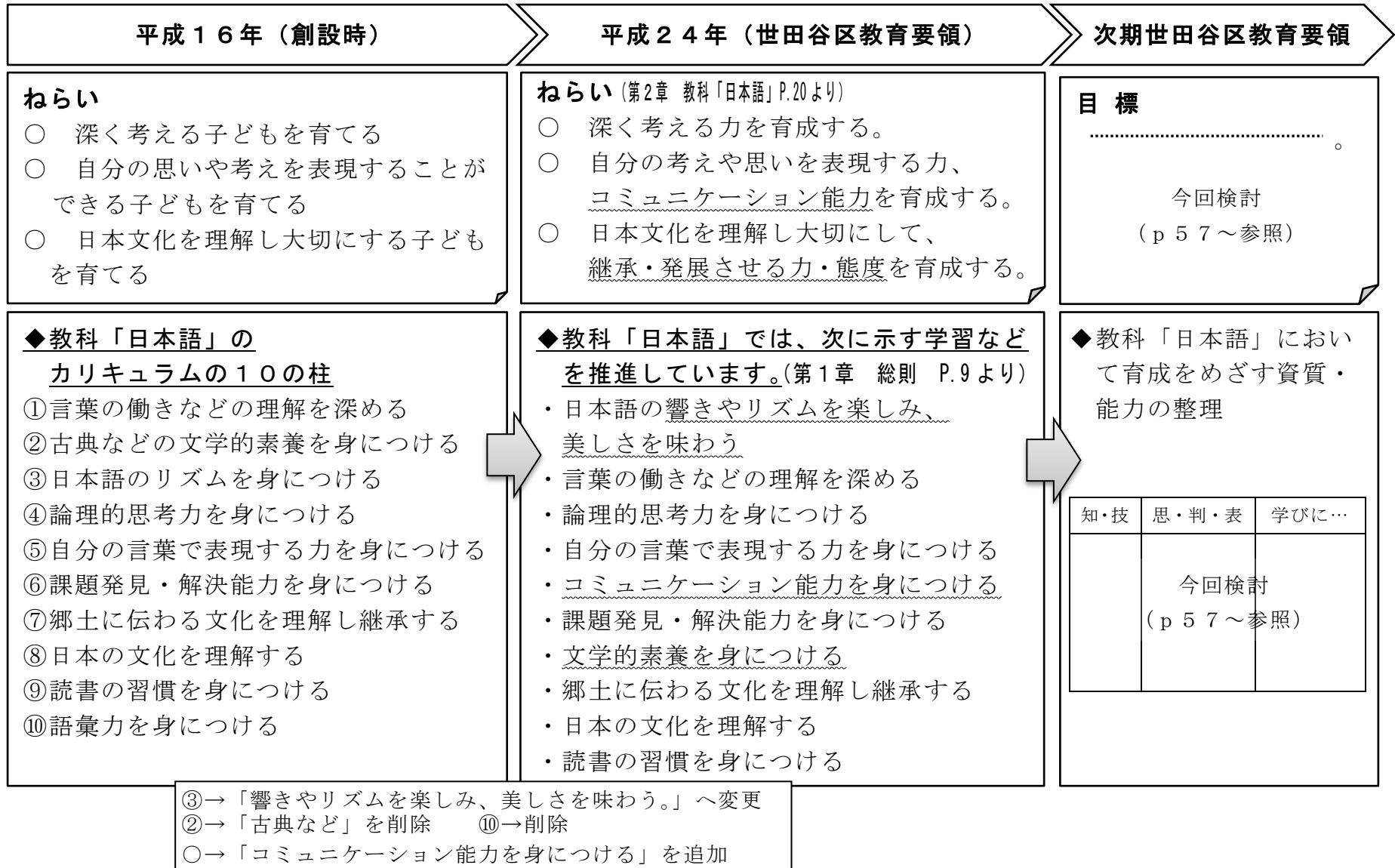
- (1) 日本の和歌・俳句・古文、漢詩・漢文、明治以降における詩などの朗誦を通して、日本語の響きやリズムを楽しみ、日本語の響きやリズムの美しさを味わう学習。
- (2) 日本の和歌・俳句・古文、漢詩、明治以降における詩や、日本の豊かな四季を表すことば、季語、自然を生かした日本人の生活に関する文章などを通して、自然から深く影響を受けている日本人の感性や考え方、自然とともに生きてきた日本人の生活について理解を深める学習。

2 豊かな知力

- (1) 日本の和歌・俳句・古文、漢詩・漢文、明治以降における詩などの朗誦を通して、文学的素養を身につける学習。
- (2) 日本の古典や、日本の豊かな四季を表すことば、季語、日本人の衣・食・住、産業などを通して、自然を生かし自然とともに暮らす日本人の知恵を学ぶ学習。

(3) 教科「日本語」のねらい等の変遷

平成24年度に創設時のねらい等から一部を変更している。



(4) 次期学習指導要領（平成29年3月告示予定）改訂の方向性

教科「日本語」は、世田谷区が独自に設けている特別の教科であるが、その改訂に当たっては、社会の変化や学習指導要領の改訂の状況等も見据えながら、検討を進めていく必要がある。

『学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）』中央教育審議会」（平成28年12月21日）より

① 2030年の社会と子供たちの未来（抜粋）

新しい学習指導要領等は、2020年から、その10年後の2030年頃までの間、子供たちの学びを支える重要な役割を担う。

21世紀の社会は知識基盤社会である。情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきている。第4次産業革命ともいわれる進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされている。

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきている。どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。子供たちは、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待される。

子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。

② 何ができるようになるのか ―育成をめざす資質・能力―（抜粋）

(ア) 資質・能力の三つの柱に基づく教育課程の枠組みの整理

・教科等の目標や内容を以下の三つの柱に基づき再整理する

1) 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

2) 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

3) 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

(イ) 教科等を学ぶ意義の明確化

・子供たちに必要な資質・能力を育んでいくためには、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にすることが必要である。

(ウ) 教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力

・全ての学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力などを、各学校段階を通じて体系的に育んでいくことが重要である。

③ 幼児教育（抜粋）

5歳児修了時までには育てほしい具体的な姿（「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形、文字等への関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」）を明確にし、幼児教育の学びの成果が小学校と共有されるよう工夫・改善を行う。



5 今後の教科「日本語」の在り方

(1) 検証・検討委員会での主な意見・協議内容

①成果

- ・ことばを重視した学習は教科「日本語」の強みである。今回の実態調査の結果や授業の様子から、世田谷区の児童・生徒はことばへの関心が高く、他自治体と比べ、自分なりの考えをもつことができる子が多いと感じる。
- ・小学校では、特に低学年の児童が朗唱を通して、日本語の響きやリズムを楽しんだり親しんだりする様子が見られる。また、全校集会で朗唱を発表したり、掲示物を工夫したりする等、学校全体でことばを大切にしている学校も多い。
- ・中学校では、生徒の学力等に関わらず自分の感じたことや考え等を他者に伝えることができる。例えば、都立高校の入学者選抜では集団討論が導入されており、その際に教科「日本語」の授業が役立ったといった声も聞かれる。
- ・地域のゲストティーチャーを活用した着付け体験や茶道体験などの体験活動は子どもたちの日本文化の理解を深めている。
- ・学識経験者の授業観察では、子どもたちのことばに対する敏感さが伝えられた。

②課題

- ・今回の実態調査の結果や授業の様子から、小学校は高学年の学習内容を充実・改善する必要がある。中学年までは従来のインプットを中心とした学習内容でもよいが、高学年から深く考える内容やアウトプットも意識した、表現活動を増やしていく必要がある。
- ・中学校と小学校の学習内容の難易度の差が大きい。中学1年生にとって、「哲学」の内容は、小学生までと大きく異なり、難しい。
- ・中学校の各領域「哲学」「表現」「日本文化」は、学年毎に一つの領域を学ぶのではなく、創設時のように一つの学年で複数の領域を学習した方が効果的である。
- ・カリキュラム・マネジメントの考え方から他教科との関連を含めて題材等の精選が必要である。
- ・教員の指導力や学校間の教科「日本語」推進への意識の差が見られる。初任者や他地区からの異動者の指導力向上や各学校の組織的な指導体制の見直しが課題である。
- ・教材準備等に負担を感じている教員の割合が中学校教員に多い。その負担軽減に役立つ対策を立てられるとよい。

(2) 教科「日本語」の目標

日本人が培ってきた言語文化や感性を基にした見方・考え方を働かせ、日本語の響きやリズムを楽しみ美しさを味わう活動や、日本文化や人々の生き方等について深く考えたり伝え合ったりする活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することをめざす。

(知識及び技能) ことばの働きや、日本や世田谷に伝わる文化を理解する。

(思考力、判断力、表現力等) 様々な課題を多面的・論理的に思考・判断し、それを適切に表現するためのコミュニケーション能力を育成する。

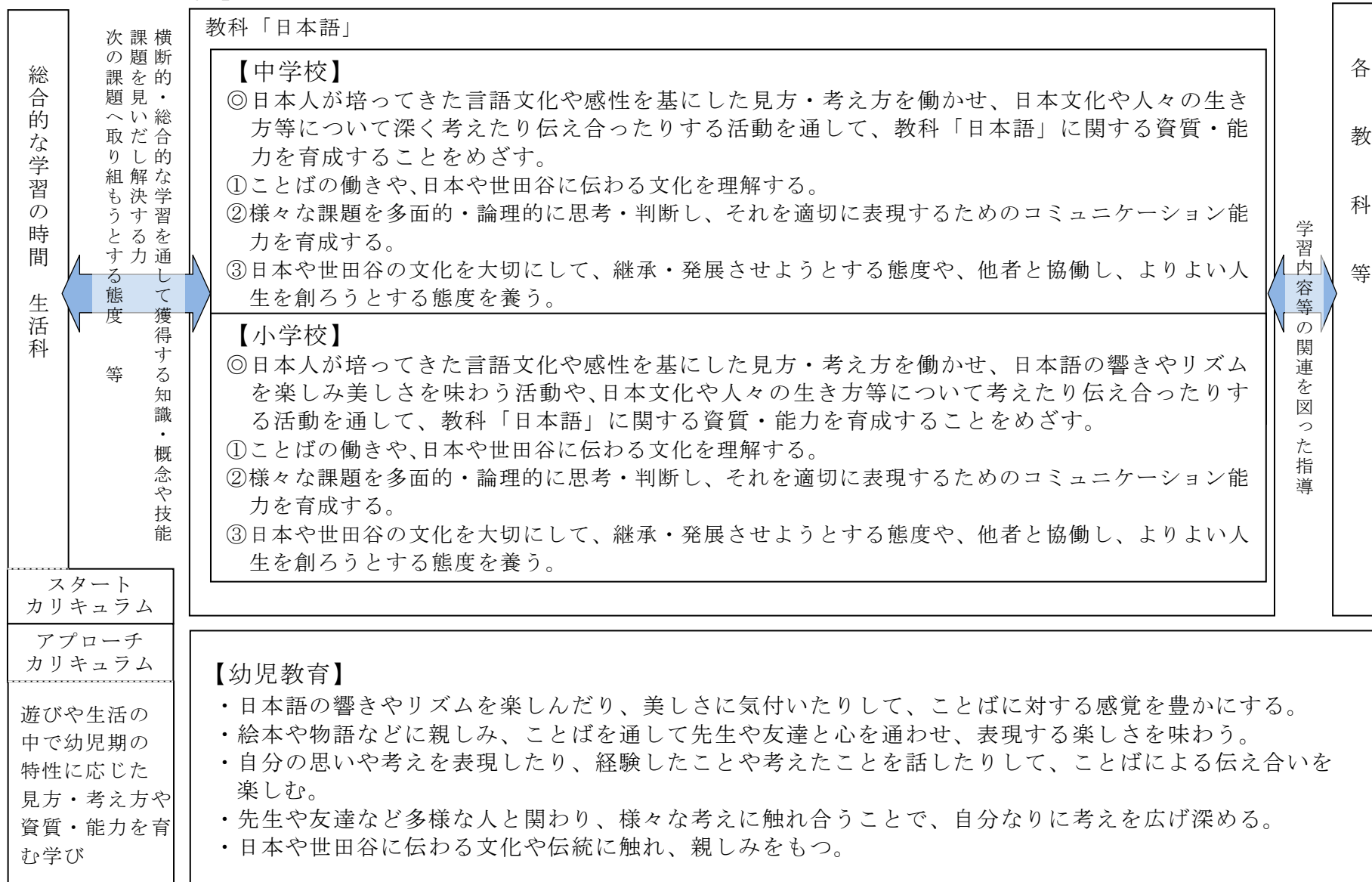
(学びに向かう力、人間性等) 日本や世田谷の文化を大切にして、継承・発展させようとする態度や、他者と協働し、よりよい人生を創ろうとする態度を養う。

なお、教科「日本語」において育成をめざす資質・能力は、他の教科と同様に3観点で示すが、「学びに向かう力、人間性等」を重点とする。また、学習過程を通じて「思考力、判断力、表現力等」を高めるよう工夫し、その過程で「知識及び技能」も身に付くものとする。

(3) 教科「日本語」において育成をめざす資質・能力の整理

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小・中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ことばの働きや役割と言語文化の理解 ○日本や世田谷に伝わる文化の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な事物・事象から課題を設定する力 ○多面的・論理的に思考する力 ○様々な情報を基に意思決定や行動選択する力 ○相手や場の状況に応じたコミュニケーション能力 ○自分のことばで表現する力 ○他者と協働して新たな考えを生み出す力 	<ul style="list-style-type: none"> ○古典などの文学的素養に親しむ態度 ○読書に親しみ、人生を豊かにしようとする態度 ○日本語の響きやリズムを楽しみ、美しさを味わう態度 ○自分の考えや意見を論理的に構成し、表現しようとする態度 ○日本や世田谷に伝わる文化を継承・発展させようとする態度 ○ことばを通じてよりよい社会や人との豊かな関わりを創り出そうとする態度 ○自己の在り方や生き方に自信をもち、よりよい人生を創ろうとする態度

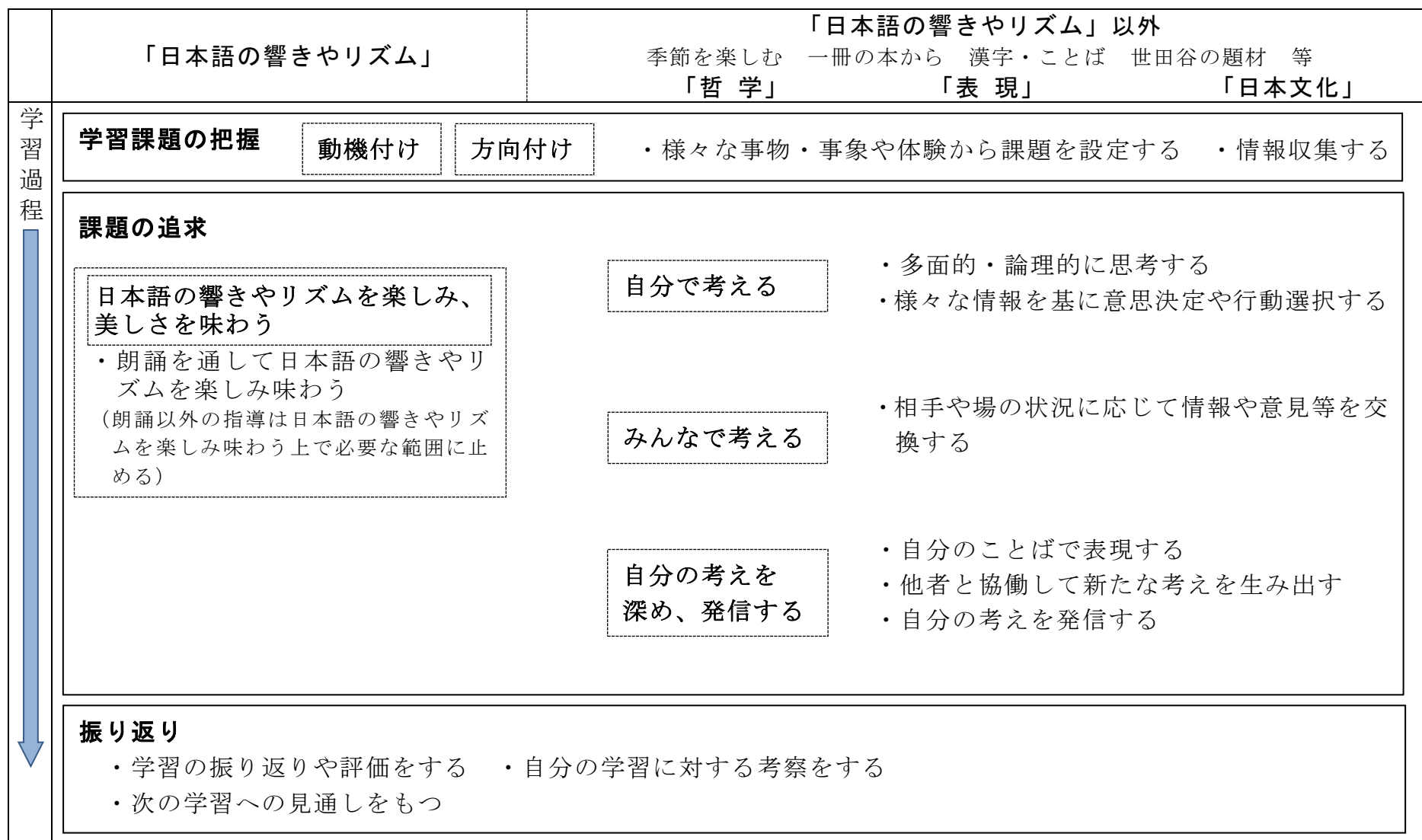
(4) 教科「日本語」における教育のイメージ



- 【中学校】**
- ◎日本人が培ってきた言語文化や感性を基にした見方・考え方を働かせ、日本文化や人々の生き方等について深く考えたり伝え合ったりする活動を通して、教科「日本語」に関する資質・能力を育成することをめざす。
 - ①ことばの働きや、日本や世田谷に伝わる文化を理解する。
 - ②様々な課題を多面的・論理的に思考・判断し、それを適切に表現するためのコミュニケーション能力を育成する。
 - ③日本や世田谷の文化を大切にして、継承・発展させようとする態度や、他者と協働し、よりよい人生を創ろうとする態度を養う。
- 【小学校】**
- ◎日本人が培ってきた言語文化や感性を基にした見方・考え方を働かせ、日本語の響きやリズムを楽しみ美しさを味わう活動や、日本文化や人々の生き方等について考えたり伝え合ったりする活動を通して、教科「日本語」に関する資質・能力を育成することをめざす。
 - ①ことばの働きや、日本や世田谷に伝わる文化を理解する。
 - ②様々な課題を多面的・論理的に思考・判断し、それを適切に表現するためのコミュニケーション能力を育成する。
 - ③日本や世田谷の文化を大切にして、継承・発展させようとする態度や、他者と協働し、よりよい人生を創ろうとする態度を養う。

- 【幼児教育】**
- ・日本語の響きやリズムを楽しんだり、美しさに気付いたりして、ことばに対する感覚を豊かにする。
 - ・絵本や物語などに親しみ、ことばを通して先生や友達と心を通わせ、表現する楽しさを味わう。
 - ・自分の思いや考えを表現したり、経験したことや考えたことを話したりして、ことばによる伝え合いを楽しむ。
 - ・先生や友達など多様な人と関わり、様々な考えに触れ合うことで、自分なりに考えを広げ深める。
 - ・日本や世田谷に伝わる文化や伝統に触れ、親しみをもつ。

(5) 教科「日本語」の学習過程のイメージ



自分の考えを
深め、発信する

必ずしも一方向、順序性のある流れではない。

(6) まとめ

今回の実態調査結果とその考察（p 44、45）及び、本委員会での協議内容等（p 56）を踏まえ、以下のとおり、教科「日本語」改訂の方向性を提言する。

- ①これからの時代に必要な身に付けるべき力を意識して、教科「日本語」において育成する力を検討していく。
- ②幼児教育と小学校低学年の内容の関連を図り、ことば遊び、数え歌、世田谷の民話等を題材として、日本語の響きやリズムに関する内容等を幼児教育に生かす。
- ③幼児教育や小学校では、例えば身体表現を通じた表現活動等、様々な表現方法を検討する。
- ④小学校高学年のカリキュラムに中学校の哲学・表現・日本文化の領域の要素を増やすなど学習内容や配当時数を検討する。
- ⑤中学校の哲学・表現・日本文化の領域を学年毎に実施するのではなく、各学年で3領域を組み合わせ、より効果的な学習となるよう検討する。
- ⑥カリキュラム・マネジメントの視点から、教科「日本語」の取組と各教科等や教育課題の内容の関連を検討する。
- ⑦問題解決的な学習や意思決定を伴う思考力を育む課題などを取り入れ、持続可能な発展のための教育（ESD）やプログラミング的思考、主権者教育、キャリア教育等の今日的な教育課題との関連を図る。
- ⑧2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、オリンピック・パラリンピック教育と日本の伝統・文化等について関連付け、学習を進める。
- ⑨学習評価について、評価規準や方法等を検討する。
- ⑩指導体制（特に中学校）の在り方について検討する。
- ⑪本区に異動してきた教員や若手教員の授業力向上を含め、効果的な教員研修等の在り方について検討する。
- ⑫カリキュラムの改訂や教材選定を進める際には、検討委員会の下部組織として作業部会を設け、副校長や教員等からの意見も参考にしながら検討する。

今後の予定としては、平成29年度は、教科「日本語」検討委員会を設置し、上の提言内容を基に、カリキュラムや教材等について、さらに具体的に検討していく。その際には平成29年3月に告示が予定されている次期学習指導要領等も参考にする。平成30年度からは、教科書の改訂等について検討を進める。また、平成29年度策定予定の「世田谷区幼児教育・保育推進ビジョン」を踏まえるとともに、幼稚園教育要領全面実施に合わせて幼児教育で教科「日本語」の要素を入れた取組を開始する。平成31年度は、教科書の作成及びモデル校での取組や移行措置等の対応を含めた実施を行う。最終的には、次期の学習指導要領及び世田谷区教育要領の全面実施に合わせて、小学校は平成32年度から、中学校は33年度から新しい取組を開始する。

こうした検討等を丁寧に進め、次代を担う児童・生徒の力をさらに高めるような教科「日本語」の取組を具現化していく。